

講義コード	U360100101	科目ナンバリング	036A101	単位	4
講義名	○基礎演習 I A				
英文科目名	Practical works on the basic French language, I				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 2時限 南1-206.通年 木曜日 2時限 南1-206				

授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学ぶ。

到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、文字と発音
第2回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第3回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第4回	Leçon 2 (1): être、avoir、否定文2
第5回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第6回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第7回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第8回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第9回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第10回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第11回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第12回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第13回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第14回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第15回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第16回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第17回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第18回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第19回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第20回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第21回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第22回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第23回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第24回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第25回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第26回	補遺: 単純過去、前過去、接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義および問題演習

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題をやっておくこと。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次回の授業で質問すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30%	

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト	10 %	
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答えは返却し、授業内で解説を行う。

教科書

グラメール・フランセーズ(新訂版),学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2025,978-4-255-35369-2

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015, 978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

予習・復習を欠かさないこと。

講義コード	U360100102	科目ナンバリング	036A101	単位	4
講義名	○基礎演習 I B				
英文科目名	Practical works on the basic French language, I				
担当者名	志々見 剛				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 2時限 西1-209.通年 木曜日 2時限 西1-209				

授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学びます。

到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、文字と発音
第2回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第3回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第4回	Leçon 2 (1): être、avoir、否定文2
第5回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第6回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第7回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第8回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第9回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第10回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第11回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第12回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第13回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第14回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第15回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第16回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第17回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第18回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第19回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第20回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第21回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第22回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第23回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第24回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第25回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第26回	補遺: 単純過去、前過去、接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があります。

授業方法

講義および問題演習

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題を行う。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次回の授業で質問する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30%	

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト	20 %	
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

割合等を変更する場合は、周知します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答えは採点の上、返却します。

教科書

グラメール・フランセーズ(新訂版),学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2025

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015, 978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書などは、教室で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

予習・復習を欠かさないこと。

講義コード	U360100103	科目ナンバリング	036A101	単位	4
講義名	○基礎演習 I C				
英文科目名	Practical works on the basic French language, I				
担当者名	内藤 真奈				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 2時限 西1-206.通年 木曜日 2時限 西1-206				

授業概要

週2回の授業を通して、1年間でフランス語の基礎(初級文法、発音、語彙・表現など)を学ぶ。

到達目標

1. フランス語の基礎的なルールを習得する。
2. 辞書を用いてフランス語の短い文章を読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、文字と発音 理解と問題演習
第2回	Leçon 1 (1) 名詞の性・数、冠詞、形容詞1、提示表現 理解と問題演習
第3回	Leçon 1 (2) 人称代名詞1:主語、第1群規則動詞、否定文1 理解と問題演習
第4回	Leçon 2 (1) être、avoir、否定文2 理解と問題演習
第5回	Leçon 2 (2) 疑問文、指示形容詞、所有形容詞 理解と問題演習
第6回	Leçon 3 (1) 第2群規則動詞、縮約、aller、venir 理解と問題演習
第7回	Leçon 3 (2) 近接未来・近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞 理解と問題演習
第8回	Leçon 4 (1) 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置 理解と問題演習
第9回	Leçon 4 (2) 比較級・最上級、人称代名詞2:強勢形 理解と問題演習
第10回	Leçon 5 (1) 複合過去、関係代名詞1 理解と問題演習
第11回	Leçon 5 (2) 強調構文、性数一致、受動態、命令法 理解と問題演習
第12回	Leçon 6 (1) 人称代名詞3:目的補語 理解と問題演習
第13回	Leçon 6 (2) 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞 理解と問題演習
第14回	Leçon 7 (1) 代名動詞 理解と問題演習
第15回	Leçon 7 (2) 中性代名詞 理解と問題演習
第16回	Leçon 8 (1) 半過去、大過去、時制の一致1 理解と問題演習
第17回	Leçon 8 (2) 疑問代名詞2、関係代名詞2 理解と問題演習
第18回	Leçon 9 (1) 単純未来、前未来 理解と問題演習
第19回	Leçon 9 (2) 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞 理解と問題演習
第20回	Leçon 10 (1) 条件法現在、条件法過去、時制の一致2 理解と問題演習
第21回	Leçon 10 (2) 知覚動詞、放任動詞、使役動詞 理解と問題演習
第22回	Leçon 11 (1) 直接話法・間接話法 理解と問題演習
第23回	Leçon 11 (2) 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文 理解と問題演習
第24回	Leçon 12 (1) 接続法現在、接続法過去 理解と問題演習
第25回	Leçon 12 (2) 接続法の用法 理解と問題演習
第26回	補遺:単純過去、前過去、接続法半過去・大過去、条件法過去第2形、自由間接話法

授業計画コメント

単元の内容、履修者の理解度にしたがって、必要があれば進度を調整する。

授業方法

教科書に沿って文法を理解し、練習問題を行うことで整理、定着を図る。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

予習:次の授業で扱う課の内容に目を通しておく。予習課題を行う。(30分)

復習:文法事項、単語、表現などを復習し、復習課題を行い、小テストの準備をする。疑問点があれば整理し、次の授業で質問する。(1時間30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト	20 %	2課修了ごと・学期に2~3回
レポート		
小テスト	10 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	課題提出、積極的な授業参加
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

評価基準は目安であり、状況によっては変更する場合がある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内テスト、定期試験などの答案は採点し、コメントを付して返却する。

教科書

グラメール・フランセーズ 新訂版, 学習院フランス語教育研究会, 朝日出版社, 2025, 978-4-255-35369-2

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー, 久保田剛史、高橋信良、井上櫻子, 朝日出版社, 2015, 978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書などは授業で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

各課の予習・復習は必ず行うこと。

講義コード	U360101101	科目ナンバリング	036A102	単位	4
講義名	○基礎演習ⅡA				
英文科目名	Practical works on the basic French language, II				
担当者名	田上 竜也, 川口 覚子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 月曜日 5時限 南1-202. 通年 木曜日 5時限 西1-108				

授業概要

2名の担当で、それぞれが中級文法(川口)、講読(田上)を扱う。

到達目標

フランス語の基礎文法を再確認した上で、辞書を使ってテキストがスムーズに読解できる力を身に付ける。

授業内容

実施回	内容
第1回	全般的説明。
第2回	文法のおさらい(川口)、テキスト講読(田上)
第3回	文法と講読(2)
第4回	文法と講読(3)
第5回	文法と講読(4)
第6回	文法と講読(5)
第7回	文法と講読(6)
第8回	文法と講読(7)
第9回	文法と講読(8)
第10回	文法と講読(9)
第11回	文法と講読(10)
第12回	文法と講読(11)
第13回	前期のまとめ。前期試験。
第14回	後期の説明
第15回	文法のおさらい、和文仏訳(川口)、テキスト講読(田上)
第16回	文法と講読(12)
第17回	文法と講読(13)
第18回	文法と講読(14)
第19回	文法と講読(15)
第20回	文法と講読(16)
第21回	文法と講読(17)
第22回	文法と講読(18)
第23回	文法と講読(19)
第24回	文法と講読(20)
第25回	文法と講読(21)
第26回	年間のまとめ。後期試験。

授業計画コメント

授業進度は、学習者の理解度にあわせて調節する。

上記の内容に加え、読解の授業において、4年次での卒論執筆の準備となるようなレポートの書き方についての演習を行う。

授業方法

原則対面による演習。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

事前に当該箇所を読み、下調べをすること。また必ず復習もすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	0 %	

学年末試験(第2学期)	%	
中間テスト	0	%
レポート	0	%
小テスト	0	%
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	0	%
その他(備考欄を参照)	100%	二人の担当教員が、それぞれ50%ずつ。それぞれの詳細は、以下のコメント欄を参照。

成績評価コメント

川口: 学期末試験(1学期)40%、学年末試験(2学期)40%、小テスト10%、授業での発表内容・参加度10%
 田上: 能動的クラス参加、グループ作業の成果等:25%(聴講態度重視) 第1学期(学期末試験):25%(試験の成績による) 第2学期(学期末試験):25%(試験の成績による) 真摯に学習することはもちろんであるが、さらに聴講態度も重視する。居眠り、私語、飲食(ガム、飴含む)、無断退出、メールなどは減点対象となり、はなはだしい場合には単位取得不可とみなす場合もある。小テスト:25%(動詞活用や単語などについて随時行う)(田上)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期末試験および小テストは返却する。第2学期末試験は返却しないが、成績に疑問があれば質問に答える(田上)

教科書コメント

教科書については、授業にて詳細説明(川口)
 コピー配布(田上)。テキストはメーテルランクの『室内』を予定。授業初回に説明する。

参考文献コメント

辞書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修態度も重視する。授業中の飲食(ガム、飴など)、携帯電話、スマートフォン利用、居眠り、私語、途中退出(必要な場合には申告すること)は大きな減点対象となるので注意すること。

講義コード	U360101102	科目ナンバリング	036A102	単位	4
講義名	○基礎演習ⅡB				
英文科目名	Practical works on the basic French language, II				
担当者名	須藤 健太郎, 土橋 友梨子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 1時限 西1-210.通年 木曜日 5時限 西2-203				

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習(担当:須藤)を行い、毎週もう1つの回では、中級文法の演習(担当:土橋)を行う。
第2回	テキスト読解、文法演習(1)
第3回	テキスト読解、文法演習(2)
第4回	テキスト読解、文法演習(3)
第5回	テキスト読解、文法演習(4)
第6回	テキスト読解、文法演習(5)
第7回	テキスト読解、文法演習(6)
第8回	テキスト読解、文法演習(7)
第9回	テキスト読解、文法演習(8)
第10回	テキスト読解、文法演習(9)
第11回	テキスト読解、文法演習(10)
第12回	テキスト読解、文法演習(11)
第13回	理解度の確認
第14回	前期の振り返り
第15回	テキスト読解、文法演習(12)
第16回	テキスト読解、文法演習(13)
第17回	テキスト読解、文法演習(14)
第18回	テキスト読解、文法演習(15)
第19回	テキスト読解、文法演習(16)
第20回	テキスト読解、文法演習(17)
第21回	テキスト読解、文法演習(18)
第22回	テキスト読解、文法演習(19)
第23回	テキスト読解、文法演習(20)
第24回	テキスト読解、文法演習(21)
第25回	テキスト読解、文法演習(22)
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容に加え、読解の授業において、4年次での卒論執筆の準備となるようなレポートの書き方についての演習を行う。

授業方法

演習形式。文法事項の説明、練習問題の解説、仏文和訳の読解と解説を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで発表の準備をし、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト	15 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	15 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の配分はあくまで目安であり、すべての項目に意欲的に取り組むことが求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポートは実施後に採点、コメントをつけて返却する。

教科書

レヴューリレーション II,熊倉良子 / 田中善英 / 福田(寺嶋)美雪 他,朝日出版社,2015,9784255352510

教科書コメント

授業時に指示・配布(須藤)
上記教科書使用(土橋)

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360101103	科目ナンバリング	036A102	単位	4
講義名	○基礎演習ⅡC				
英文科目名	Practical works on the basic French language, II				
担当者名	大野 麻奈子・岡部 杏子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 水曜日 1時限 西1-103.通年 木曜日 5時限 西1-109				

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、中級文法の演習を行う。 |
| 第2回 | テキスト読解、文法演習(1) |
| 第3回 | テキスト読解、文法演習(2) |
| 第4回 | テキスト読解、文法演習(3) |
| 第5回 | テキスト読解、文法演習(4) |
| 第6回 | テキスト読解、文法演習(5) |
| 第7回 | テキスト読解、文法演習(6) |
| 第8回 | テキスト読解、文法演習(7) |
| 第9回 | テキスト読解、文法演習(8) |
| 第10回 | テキスト読解、文法演習(9) |
| 第11回 | テキスト読解、文法演習(10) |
| 第12回 | テキスト読解、文法演習(11) |
| 第13回 | 理解度の確認 |
| 第14回 | 前期の振り返り |
| 第15回 | テキスト読解、文法演習(12) |
| 第16回 | テキスト読解、文法演習(13) |
| 第17回 | テキスト読解、文法演習(14) |
| 第18回 | テキスト読解、文法演習(15) |
| 第19回 | テキスト読解、文法演習(16) |
| 第20回 | テキスト読解、文法演習(17) |
| 第21回 | テキスト読解、文法演習(18) |
| 第22回 | テキスト読解、文法演習(19) |
| 第23回 | テキスト読解、文法演習(20) |
| 第24回 | テキスト読解、文法演習(21) |
| 第25回 | テキスト読解、文法演習(22) |
| 第26回 | 理解度の確認 |

授業計画コメント

上記の内容に加え、文法の授業においては4年次での卒論執筆の準備となるようなレポートの書き方についての演習も行う。

授業方法

演習形式

文法事項の説明、練習問題の解説、仏文和訳の読解と解説を行う。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで発表の準備をし、練習問題などを行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記はあくまでも目安であり、学期末および学年末試験以外の20%は、小テストの結果、授業参加への積極性を考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験や小テストは実施後に採点、コメントをつけて返却する。

教科書

ことばの色 中級からのフランス文学読本,杉本圭子、福田桃子、岡部杏子,朝日出版社,初,2020,978-4-255-35312-8

教科書コメント

授業時に指示・配布(大野)問題集を使用する際には、初回の授業でお知らせします。
上記教科書使用 (岡部)

参考文献

新フランス語文法事典,朝倉季雄,白水社,2002,978-4560000373

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360102101	科目ナンバリング	036A103	単位	4
講義名	フランス語演習A				
副題	Traduire en français				
英文科目名	Seminar in the French language				
担当者名	MARE, Thierry				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 水曜日 3時限 北1-304				

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	exercices (1)
第6回	exercices (2)
第7回	exercices (3)
第8回	exercices (4)
第9回	exercices (5)
第10回	exercices (6)
第11回	exercices (7)
第12回	exercices (8)
第13回	exercices (9)
第14回	exercices (10)
第15回	exercices (11)
第16回	exercices (12)
第17回	exercices (13)
第18回	exercices (14)
第19回	exercices (15)
第20回	exercices (16)
第21回	exercices (17)
第22回	exercices (18)
第23回	exercices (19)
第24回	exercices (20)
第25回	exercices (21)
第26回	exercices (22)

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

使用言語

日本語・French

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux,

que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d'un corrigé expliqué en classe.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360102102	科目ナンバリング	036A103	単位	4
講義名	フランス語演習B				
副題	Traduire en français				
英文科目名	Seminar in the French language				
担当者名	MARE, Thierry				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 水曜日 4時限 北1-304				

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	exercices (1)
第6回	exercices (2)
第7回	exercices (3)
第8回	exercices (4)
第9回	exercices (5)
第10回	exercices (6)
第11回	exercices (7)
第12回	exercices (8)
第13回	exercices (9)
第14回	exercices (10)
第15回	exercices (11)
第16回	exercices (12)
第17回	exercices (13)
第18回	exercices (14)
第19回	exercices (15)
第20回	exercices (16)
第21回	exercices (17)
第22回	exercices (18)
第23回	exercices (19)
第24回	exercices (20)
第25回	exercices (21)
第26回	exercices (22)

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

使用言語

日本語・French

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux,

que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d'un corrigé expliqué en classe.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103101	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールA				
副題	コレット研究				
英文科目名	Seminar				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 3時限 南1-203				

授業概要

元高級娼婦と、親子ほども年の離れた青年との関係を描いたコレットの『シェリ』(1920年)を読む。それまで自伝的小説ばかりを書いてきたコレットが初めて描いたフィクションであり、ジッドが「一カ所として軟弱なところ、冗漫な文章、陳腐な表現もない」と賞嘆したこの作品を通して、コレットの文学やベル・エポック期の社会について多角的に考えることを目指す。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(1)
第3回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(2)
第4回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(3)
第5回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(4)
第6回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(5)
第7回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(6)
第8回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(7)
第9回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(8)
第10回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(9)
第11回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(10)
第12回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(11)
第13回	前期のまとめ
第14回	後期ガイダンス
第15回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(12)
第16回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(13)
第17回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(14)
第18回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(15)
第19回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(16)
第20回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(17)
第21回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(18)
第22回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(19)
第23回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(20)
第24回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(21)
第25回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(22)
第26回	まとめ

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法

演習

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

授業で扱う範囲を読んだうえ、疑問点、気になった点、興味深い点などをあらかじめMoodleで提出すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	夏期レポートおよび学年末レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

Chéri: GF Flammarion, Colette, Flammarion, 2025, 9782080449979

参考文献

シェリ: 岩波文庫, コレット, 岩波書店, 1994, 978-4003258521

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103102	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールB				
副題	文学と建築				
英文科目名	Seminar				
担当者名	田上 竜也				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 月曜日 3時限 中央-508				

授業概要

文学や諸芸術と建築とのかかわりを、さまざまなテキストを題材に考察します。

到達目標

作家、作品について理解を深めるとともに、文学や建築についての教養を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	ゼミナールの主題についての講義(1)
第3回	ゼミナールの主題についての講義(2)
第4回	ゼミナールの主題についての講義(3)
第5回	プレゼンテーションの方法指導
第6回	図書館ガイダンス
第7回	学生発表(1)
第8回	学生発表(2)
第9回	学生発表(3)
第10回	学生発表(4)
第11回	学生発表(5)
第12回	学生発表(6)
第13回	前期のまとめ
第14回	レポートの書き方指導
第15回	学生発表(7)
第16回	学生発表(8)
第17回	学生発表(9)
第18回	学生発表(10)
第19回	学生発表(11)
第20回	学生発表(12)
第21回	学生発表(13)
第22回	学生発表(14)
第23回	学生発表(15)
第24回	美術館訪問
第25回	学生発表(16)
第26回	年間のまとめ

授業計画コメント

テキストは随時コピー配布します。初回の授業で、学生のみなさんと相談のうえ、いくつかの候補から決定します。

授業方法

原則対面によるが、場合によりTeams使用

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

特に担当箇所は十分準備すること(約2、3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)	0 %	
中間テスト	0 %	
レポート	50 %	プレゼンテーションおよび配布資料作成
小テスト	0 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

成績評価コメント

能動的クラス参加、グループ作業の成果等:50%聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴含む)、無断退出、メールなどは減点対象となります。レポート:50%(授業内発表のレジュメ)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表についてその都度コメントにより評価する。

教科書コメント

コピー配布。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

メールを使用

講義コード	U360103103	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールC				
副題	翻訳者への第一歩				
英文科目名	Seminar				
担当者名	堀内 ゆかり				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 月曜日 3時限 西2-403				

授業概要

フランス語の文章をよく読み、意味を正確に理解したうえで、もとの文章の雰囲気を保つ日本語にするトレーニングをします。原文のリズムを感じるためには音読、原文を正確に読むにはフランス語力も不可欠です。自分の興味に応じたテーマに関する発表も予定しています。

今年度は Jean de Brunhoff による『ぞうのババール』(初版1931年)を読みます。

到達目標

「自分で考える」とは？ 翻訳や発表を通じて「自分で考える」ことを体得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction 筆記体の読み方
第2回	音読、読解、翻訳の検討(1)
第3回	音読、読解、翻訳の検討(2)
第4回	音読、読解、翻訳の検討(3)
第5回	音読、読解、翻訳の検討(4)
第6回	音読、読解、翻訳の検討(5)
第7回	音読、読解、翻訳の検討(6)
第8回	音読、読解、翻訳の検討(7)
第9回	音読、読解、翻訳の検討(8)
第10回	音読、読解、翻訳の検討(9)
第11回	音読、読解、翻訳の検討(10)
第12回	音読、読解、翻訳の検討(11)
第13回	第1学期まとめ
第14回	音読、読解、翻訳の検討(12)
第15回	音読、読解、翻訳の検討(13)
第16回	音読、読解、翻訳の検討(14)
第17回	音読、読解、翻訳の検討(15)
第18回	音読、読解、翻訳の検討(16)
第19回	音読、読解、翻訳の検討(17)
第20回	音読、読解、翻訳の検討(18)
第21回	音読、読解、翻訳の検討(19)
第22回	音読、読解、翻訳の検討(20)
第23回	音読、読解、翻訳の検討(21)
第24回	音読、読解、翻訳の検討(22)
第25回	音読、読解、翻訳の検討(23)
第26回	第2学期まとめ

授業方法

演習形式。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

翻訳(1時間以上)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	10 %	
学年末試験(第2学期)	10 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	参加度で評価します
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

原則として返却します

教科書

Histoire de Babar, Jean de Brunhoff, Hachette, 2211063276

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103104	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールD				
副題	Deux tragédies de Corneille				
英文科目名	Seminar				
担当者名	MARE, Thierry				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 3時限 北1-403				

授業概要

Le séminaire de cette année sera consacré aux deux pièces par lesquelles, après la querelle du "Cid" (1637-1639), Pierre Corneille répond à ceux qui lui reprochaient de négliger les « règles » d'Aristote en produisant deux tragédies fondatrices de la dramaturgie classique. "Horace" en 1640, tiré des premiers livres de Tite-Live, explore les origines mythique de Rome, tandis que "Cinna" en 1641, sous-titré "La Clémence d'Auguste", s'intéresse au passage de la République à l'Empire. Toutes deux interrogent la relation entre héroïsme personnel et histoire politique.

到達目標

Le premier semestre sera consacré à "Horace". Après avoir présenté l'histoire du théâtre littéraire en France (c'est-à-dire de la tragédie inspirée des Grecs) et exposé les débats qui se sont multipliés à partir de la Renaissance autour de la "Poétique" d'Aristote, nous lirons la pièce aussi précisément que possible. J'insisterai sur un certain nombre de points concernant la littérature et le théâtre : la construction des scènes, la versification, la difficile question des « bienséances » et de la « vraisemblance ».

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Introduction générale 1 : L'imitation de la tragédie grecque dans le théâtre français. |
| 第2回 | Introduction générale 2 : L'autorité d'Aristote et la querelle du "Cid". |
| 第3回 | Lecture d'"Horace" Acte 1 |
| 第4回 | Lecture d'"Horace" Acte 1 (suite) |
| 第5回 | Lecture d'"Horace" Acte 2 |
| 第6回 | Lecture d'"Horace" Acte 2 (suite) |
| 第7回 | Lecture d'"Horace" Acte 3 |
| 第8回 | Lecture d'"Horace" Acte 3 (suite) |
| 第9回 | Lecture d'"Horace" Acte 4 |
| 第10回 | Lecture d'"Horace" Acte 4 (suite) |
| 第11回 | Lecture d'"Horace" Acte 5 |
| 第12回 | Lecture d'"Horace" Acte 5 (suite) |
| 第13回 | Conclusion du semestre |
| 第14回 | Introduction à la lecture de "Cinna". |
| 第15回 | Lecture de "Cinna" Acte 1 |
| 第16回 | Lecture de "Cinna" Acte 1 (suite) |
| 第17回 | Lecture de "Cinna" Acte 2 |
| 第18回 | Lecture de "Cinna" Acte 2 (suite) |
| 第19回 | Lecture de "Cinna" Acte 3 |
| 第20回 | Lecture de "Cinna" Acte 3 (suite) |
| 第21回 | Lecture de "Cinna" Acte 4 |
| 第22回 | Lecture de "Cinna" Acte 4 (suite) |
| 第23回 | Exposés 1 |
| 第24回 | Exposés 2 |
| 第25回 | Exposés 3 |
| 第26回 | Conclusion du semestre et de l'année. |

授業計画コメント

Le temps consacré aux exposés dépendra évidemment du nombre des étudiants. Si ceux-ci s'avéraient plus nombreux que prévu, nous serions obligés de procéder à une révision de cet emploi du temps.

授業方法

J'explique tout ce qu'il me paraît nécessaire d'expliquer et réponds à toutes les questions qu'on veut bien me poser (en regrettant souvent qu'on me pose trop peu de questions !).

使用言語

日本語・Français

準備学習(予習・復習)

On peut lire, avant chaque cours, la partie du texte que nous expliquerons ensemble. Je n'en fais toutefois pas une obligation.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	100%	Il s'agit d'exposés d'une vingtaine de minutes ayant lieu devant toute la classe.
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Les exposés seront évalués pour leur qualité de réflexion et de recherche, ainsi que pour le niveau de maîtrise de la langue française dont ils témoignent.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il est bien évident qu'après chaque exposé je reprendrai, pour les compléter ou les corriger, les remarques effectuées par les étudiants.

教科書

Horace: Petits Classiques Larousse, Pierre Corneille, Larousse, 2008, 978-2035839152

Cinna: Petits Classiques Larousse, Pierre Corneille, Larousse, 2010, 978-2035850836

教科書コメント

Il vaut mieux que toute la classe utilise la même édition mais, si l'on possède déjà un exemplaire de l'une ou l'autre de ces pièces, il va de soi qu'il n'est pas nécessaire d'en racheter un autre.

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。

講義コード	U360103105	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールE				
副題	作家たちの占領下 VIII				
英文科目名	Seminar				
担当者名	水野 雅司				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 月曜日 3時限 西1-205				

授業概要

昨年度に引き続き、占領下のフランスをテーマとした作品や当時の状況に関する証言等を取り上げ、当時の作家・芸術家・知識人たちが歴史的現実とどのように向き合っていたのか、あるいは後の世代がどのように向き合おうとしているのかを考察すると同時に、文学作品や映画などの芸術における〈歴史と記憶〉という問題にも目を向けたい。第1学期は、ナタリー・サロート(Nathalie Sarraute)とマルグリット・デュラス(Marguerite Duras)の作品を取り上げる予定。また必要に応じて、上記以外の作家の作品などもサブテキストとして使用して、この時代についての理解を深めたい。

第2学期は受講生による研究発表とその後の質疑応答・討論を中心に進めていく。

到達目標

第二次世界大戦下のフランスに関する作品や文献に接することで、歴史的現実とそれに対する人間の表現活動のさまざまなあり方について理解を深め、自分なりの考えを持てるようになること、またそれを自分の言葉でまとめることができるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction I : 第1学期の授業の進め方について等
第2回	ゼミ生の自己紹介、自身の関心領域などについての情報交換等
第3回	テキスト訳読と解説(1)
第4回	テキスト訳読と解説(2)
第5回	サブテキスト・資料による演習と討論 I
第6回	テキスト訳読と解説(3)
第7回	テキスト訳読と解説(4)
第8回	テキスト訳読と解説(5)
第9回	サブテキスト・資料による演習と討論 II
第10回	テキスト訳読と解説(6)
第11回	テキスト訳読と解説(7)
第12回	テキスト訳読と解説(8)
第13回	理解度の確認
第14回	Intorduction II : 第2学期の授業および研究発表について等
第15回	サブテキスト・資料による演習と討論 III
第16回	研究発表と討論(1)
第17回	研究発表と討論(2)
第18回	研究発表と討論(3)
第19回	研究発表と討論(4)
第20回	研究発表と討論(5)
第21回	研究発表と討論(6)
第22回	研究発表と討論(7)
第23回	研究発表と討論(8)
第24回	研究発表と討論(9)
第25回	まとめ - 全体討論
第26回	到達度の確認

授業計画コメント

各回の内容・進度等は目安であり、受講生の理解度や討論の展開、発表の進捗状況に応じて柔軟に修正しながら進めていきます。

授業方法

- (1) 第1学期は、テキストの熟読(演習形式)がメインです。担当者による訳文の発表とそれに対する教員の解説が中心になります。また、随時、サブテキストや音声・映像資料などをもとに参加者同士で討議したり、課題提出をしてもらう予定です。
- (2) 第2学期は、各自の関心にもとづいてあらかじめ決めておいたテーマについて研究発表をしてもらい、発表後、参加者全員で討

議します。

(3) 学年末に研究発表での討論をもとに各自の研究結果をまとめたレポートの提出あるいは筆記試験で成果を確認します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当箇所を読み、疑問点を明確しておくこと。研究発表のテーマが決定したら、授業と並行して、自主的に関連資料などに当たり、各自で準備しておく必要があります。指示された参考文献にも目を通しておくこと。(約1~2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	レポート等に代える場合もある。
学年末試験(第2学期)	40 %	レポート等に代える場合もある。
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	研究発表。討議への参加度など。
その他(備考欄を参照)	10 %	課題提出など。

成績評価コメント

上記はあくまでも目安です。学期末試験、第2学期の研究発表、学年末試験、課題の成果および授業への参加度等を総合的に判断して評価します。また学期末試験に代えてレポート等の提出物を課す場合があります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末試験、確認テスト、提出課題等は、必要に応じて授業内でフィードバックします。

教科書コメント

4月の授業内で指示します。

参考文献

ナチ占領下のフランス - 沈黙・抵抗・協力 -: 講談社選書メチエ, 渡辺和行, 講談社, 1994

ホロコーストのフランス, 渡辺和行, 人文書院, 1998

占領下パリの思想家たち - 収容所と亡命の時代: 平凡社新書, 桜井哲夫, 平凡社, 2007

参考文献コメント

その他、随時授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

質問や連絡などは授業の前後に受け付けます。次回の授業の前に確認が必要な場合は Moodle のメッセージにて受け付けます。ただし、すぐに返信できない場合もあるので、余裕を持って連絡してください。

講義コード	U360103106	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールF				
副題	デイドロ研究				
英文科目名	Seminar				
担当者名	志々見 剛				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 2時限 西1-201				

授業概要

デイドロのテキストの読解を行います。まずは『ブーガンヴィル航海記補遺』を取り上げます。

到達目標

辞書や様々なレファレンスを用いながら、フランス語テキストの読解を行えるようになること。
そこで扱われているテーマについて、自分なりに考察を深められること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	テキストの読解と分析(1)
第3回	テキストの読解と分析(2)
第4回	テキストの読解と分析(3)
第5回	テキストの読解と分析(4)
第6回	テキストの読解と分析(5)
第7回	テキストの読解と分析(6)
第8回	テキストの読解と分析(7)
第9回	テキストの読解と分析(8)
第10回	テキストの読解と分析(9)
第11回	テキストの読解と分析(10)
第12回	テキストの読解と分析(11)
第13回	テキストの読解と分析(12)
第14回	2学期のイントロダクション
第15回	テキストの読解と分析(13)
第16回	テキストの読解と分析(14)
第17回	テキストの読解と分析(15)
第18回	テキストの読解と分析(16)
第19回	テキストの読解と分析(17)
第20回	テキストの読解と分析(18)
第21回	テキストの読解と分析(19)
第22回	テキストの読解と分析(20)
第23回	テキストの読解と分析(21)
第24回	テキストの読解と分析(22)
第25回	テキストの読解と分析(23)
第26回	まとめ

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定された箇所について、辞書を引きながら事前に読んでおく。発表者は、発表用の資料を準備する。
(発表者:2時間、その他の人:30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合は目安で、変更する可能性があります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントをつけて返却する。

教科書

Supplément au voyage de Bougainville:Folio + lycée,Denis Diderot,Gallimard,2021,9782072925979

履修上の注意

履修制限あり。第一回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360103107	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールG				
副題	フランス語圏文化の理解を深める				
英文科目名	Seminar				
担当者名	内藤 真奈				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 3時限 北1-406				

授業概要

モロッコ出身の作家ターハル・ベン・ジェルーンの作品を出発点として、フランス語圏の社会に関する諸テーマについて読み、調べ、議論することを通して、論理的に思考し提示する力を養う。調査して得た知識をもとに自ら問いを立て、考察する力を身につける。

到達目標

フランス語圏文化に関するテーマについて、適切な方法を用いて調査し、説得的に提示することができるようになる。
調査した内容をもとに問題点を発見し、論理的に分析・考察することができるようになる。
関連テーマについて話し合い、グループの総合的な意見として明確に表現できるようになる。
授業全体を通して、フランス語圏文化の理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	グループワーク①
第3回	個人研究テーマの発表①
第4回	個人研究テーマの発表②
第5回	訳読とディスカッション①
第6回	訳読とディスカッション②
第7回	訳読とディスカッション③
第8回	訳読とディスカッション④
第9回	訳読とディスカッション⑤
第10回	グループワーク②
第11回	グループ発表とディスカッション①
第12回	グループ発表とディスカッション②
第13回	レポートの書き方・前期のまとめ
第14回	前期末レポートの講評
第15回	個人研究テーマの発表③
第16回	個人研究テーマの発表④
第17回	個人発表とディスカッション①
第18回	個人発表とディスカッション②
第19回	個人発表とディスカッション③
第20回	個人発表とディスカッション④
第21回	個人発表とディスカッション⑤
第22回	個人発表とディスカッション⑥
第23回	個人発表とディスカッション⑦
第24回	個人発表とディスカッション⑧
第25回	個人発表とディスカッション⑨
第26回	一年のまとめ

授業計画コメント

授業内容に関する口頭発表に加え、卒業論文、3年次レポート等に関する発表や質問の機会を設ける。
詳細なスケジュールは授業時に指示する。

授業方法

演習形式

前期はグループワークとグループ発表、フランス語テキストの訳読とディスカッションを、後期は個人による口頭発表とディスカッションを行う。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

予習: 訳読の準備、グループワーク、グループ発表、個人発表の準備をする。疑問点があれば授業で質問ができるよう明確にしておく(1時間30分)。

復習: 発表やディスカッションで得た気づきをもとに、文化や社会について考察する(30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	前期末レポート・学年末レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	訳読・ディスカッション・グループワーク・グループ発表・個人発表
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

評価基準は目安であり、状況によっては変更する場合がある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや発表に対して、適宜、コメントや講評を行う。

教科書

La Philo expliquée aux enfants: Folio Junior, Tahar Ben Jelloun, Gallimard Jeunesse, 2022, 9782075173629

教科書コメント

年度の初めに履修者の興味関心に従い、授業で読む箇所を決定する。

品切れの可能性があるので、なるべく早く注文すること。

教科書販売サイト以外で購入する場合は、授業開始時に間に合うよう入手できるか十分確認すること。

参考文献コメント

参考文献、資料は授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

履修者による訳読・調査・発表・ディスカッションが主体となるため、積極的な参加が求められる。

講義コード	U360103108	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールH				
副題	我らの時代のフランス映画				
英文科目名	Seminar				
担当者名	須藤 健太郎				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 2時限 西1-214				

授業概要

2020年以降に製作(もしくは公開)された映画作品を数本取り上げ、それに関連する映画人のインタビューや批評記事を読みます(狭義のフランス映画には限らない)。最近の事象に触れながら、同時にこれまで積み重ねられてきた歴史について学ぶことになります。訳読だけでなく、グループ発表やディスカッションにも取り組みます。

到達目標

語彙や構文を吟味しながら文意を読み取っていく精読の練習を繰り返すことで、初読でも素早く大意を捉え、おおよその趣旨を理解する能力を身につけることを目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	前期ガイダンス
第2回	課題A(1)
第3回	課題A(2)
第4回	課題A(3)
第5回	課題A(4)
第6回	課題B(1)
第7回	課題B(2)
第8回	課題B(3)
第9回	課題B(4)
第10回	研究発表(1)
第11回	研究発表(2)
第12回	研究発表(3)
第13回	研究発表(4)
第14回	後期ガイダンス
第15回	課題C(1)
第16回	課題C(2)
第17回	課題C(3)
第18回	課題C(4)
第19回	課題D(1)
第20回	課題D(2)
第21回	課題D(3)
第22回	課題D(4)
第23回	研究発表(5)
第24回	研究発表(6)
第25回	研究発表(7)
第26回	研究発表(8)

授業計画コメント

上記の計画はあくまで目安であり、受講者の理解度等に合わせて随時調整されます。

授業方法

演習形式(訳読・グループ発表・ディスカッション)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習・復習については、授業内で指示します。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の配分はあくまで目安であり、すべての項目に意欲的に取り組むことが求められます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

フィードバック方法については、授業内で指示します。

教科書コメント

必要に応じて適宜配布します。

参考文献コメント

必要に応じて適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360103109	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールI				
副題	ベケットと踊り				
英文科目名	Seminar				
担当者名	大野 麻奈子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 2時限 西1-307				

授業概要

サミュエル・ベケット(1906-1989)と「踊り」の関係について探る。対象とするのは主にベケットの演劇作品。まずは具体的にベケットとモダン・ダンスの関係をいくつかの作品を通して見ていく。そのうえでこの作家の作品に表象され得る「踊り」とは何かを追求するために、ベケット作品としばしば比較されることもある能および禅についても参考としながら研究を深める。第1学期は主にベケットにインスピレーションを受けて創られたモダン・ダンス作品、第2学期は研究テーマと繋がりのある能作品を、それぞれDVDまたは実際の公演(の場合は自由参加)で鑑賞する予定。

到達目標

- ・20世紀フランス文学・演劇の流れを、1人の作家を中心に把握し直す。
- ・20世紀後半以降から現代におけるモダン・ダンスについて知識を得る。
- ・現代演劇作品のもち得る越境性について学び、考えを深める。
- ・ディスカッションでの発言力を高める。
- ・グループ発表の計画・実行のやり方を学ぶ。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ベケットとモダン・ダンス①
第3回	ベケットとモダン・ダンス②
第4回	ベケットとモダン・ダンス③
第5回	ベケットとモダン・ダンス④
第6回	ベケットとモダン・ダンス⑤
第7回	ベケットとモダン・ダンス⑥
第8回	ベケットとモダン・ダンス⑦
第9回	ベケットとモダン・ダンス⑧
第10回	ベケットとモダン・ダンス⑨
第11回	ベケットとモダン・ダンス⑩
第12回	ベケットとモダン・ダンス⑪
第13回	まとめ
第14回	ベケットと能①
第15回	ベケットと能②
第16回	ベケットと能③
第17回	ベケットと能④
第18回	ベケットと能⑤
第19回	ベケットと能⑥ ベケットと禅①
第20回	ベケットと禅②
第21回	ベケットと禅③
第22回	グループ発表①
第23回	グループ発表②
第24回	グループ発表③
第25回	グループ発表④
第26回	まとめ

授業計画コメント

授業進度、内容については受講者に応じて修正・変更していくこともあり得る。

授業方法

演習形式なので、ディスカッションと発表を重視する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布されたテキストなどを予め読んでおくこと(30分から1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

ディスカッションや発表などに積極的に参加してほしい。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントを付して返却する。

教科書コメント

授業開始後に教師が指示する。

参考文献コメント

授業開始後に教師から紹介する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第一回目の授業に必ず出席すること。

その他

4年次学生については卒論の進捗状況の定期的な報告を求める。

講義コード	U360107101	科目ナンバリング	036A407	単位	2
講義名	入門演習A				
英文科目名	Introduction to Academic Skills				
担当者名	大野 麻奈子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 第1学期 金曜日 5時限 西2-205				

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方の基礎を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得力のある口頭発表ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	口頭発表の仕方
第5回	要約について学ぶ①
第6回	要約について学ぶ②
第7回	グループごとの発表①
第8回	グループごとの発表②
第9回	レポートの書き方①
第10回	レポートの書き方②
第11回	レポートの書き方③
第12回	レポートの書き方④
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業は課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・各回の課題をもれなく提出していること。
- ・要約、レポート、口頭発表の資料等では引用元を必ず示すこと。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。
履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107102	科目ナンバリング	036A407	単位	2
講義名	入門演習B				
英文科目名	Introduction to Academic Skills				
担当者名	志々見 剛				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 第1学期 金曜日 5時限 西2-204				

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	口頭発表の仕方
第5回	要約について学ぶ①
第6回	要約について学ぶ②
第7回	グループごとの発表①
第8回	グループごとの発表②
第9回	レポートの書き方①
第10回	レポートの書き方②
第11回	レポートの書き方③
第12回	レポートの書き方④
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があります。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業は課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107103	科目ナンバリング	036A407	単位	2
講義名	入門演習C				
英文科目名	Introduction to Academic Skills				
担当者名	岡部 杏子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 第1学期 金曜日 5時限 北1-407				

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	口頭発表の仕方
第5回	要約について学ぶ①
第6回	要約について学ぶ②
第7回	グループごとの発表①
第8回	グループごとの発表②
第9回	レポートの書き方①
第10回	レポートの書き方②
第11回	レポートの書き方③
第12回	レポートの書き方④
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業は課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・各回の課題をもれなく提出していること。
- ・要約、レポート、口頭発表の資料等では引用元を必ず示すこと。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。
履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107104	科目ナンバリング	036A407	単位	2
講義名	入門演習D				
英文科目名	Introduction to Academic Skills				
担当者名	土橋 友梨子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 第1学期 金曜日 5時限 西2-406				

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの研究倫理、基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	口頭発表グループ分け、テーマの設定
第3回	図書館の利用、資料・文献の検索
第4回	要約について学ぶ①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	要約について学ぶ②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	グループごとの発表①:グループ1・2
第9回	グループごとの発表②:グループ3・4
第10回	レポートの書き方①:プランを作る
第11回	レポートの書き方②:本文の構成と書き方を学ぶ
第12回	レポートの書き方③:注・参考文献表を作る
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があります。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、事前に必ずやってくること。課題の予習1~2時間程度。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

準備学習でも述べたとおり、提出された課題を用いてグループワークや発表を進めるので課題の提出期限は必ず守ること。最終レポートを必ず提出すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,9784140911945

まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書,阿部幸大,光文社,2024,9784334103804

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,9784790717072

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360200101	科目ナンバリング	036A201	単位	4
講義名	フランス語圏文化入門(言語・翻訳)				
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	中尾 和美				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 3時限 西2-501				

授業概要

フランス語は系統的にも文法構造上も日本語とは全く異なった言語である。にもかかわらず、ともに「頭(tête)」という語は、「人間の頭、くぎの頭、冒頭」を指すことができる。他方、フランス語には、複合過去、半過去、大過去、単純過去など、日本語には存在しない多くの過去を示す形態がある。この授業では、フランス語を日本語と比較対照させることで、ことばについて考え、言語学の第一歩となるような視点を養うことを目的とする。具体的には、新聞、小説などから実際に収集した例文を観察し、日本語と対照させることで、フランス語の語彙の使い方、またフランス語の人称、時制、法、態などの文法形式がどのように言語外現実を表現しているかを考察する。さらに、フランス語の歴史や21世紀におけるフランス語圏の現状についても考える。

到達目標

フランス語がなぜイタリア語やスペイン語と似ているのか理解できるようになる。フランス語の文法(複合過去と半過去の違い、部分冠詞とは?)について、より具体的に理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	フランス語圏の国々(1)ベルギー、スイス、ルクセンブルク
第2回	フランス語圏の国々(2)カナダ
第3回	フランス語圏の国々の現状(3)アフリカ
第4回	フランス語の歴史、変遷(1)ラテン語とフランス語
第5回	フランス語の歴史、変遷(2)ストラズブールの誓約
第6回	フランス語の歴史、変遷(3)中世、ルネサンス期
第7回	フランス語の歴史、変遷(4)近・現代
第8回	フランスにおける様々な地域語と海外領土
第9回	新語法(1)
第10回	新語法(2)
第11回	借用語
第12回	翻訳
第13回	前期テスト
第14回	誤用
第15回	固有名詞
第16回	仏語学的考察(1)部分冠詞・不定冠詞
第17回	仏語学的考察(2)定冠詞
第18回	仏語学的考察(3)名詞の性
第19回	仏語学的考察(4)女性の可視化と包括書法
第20回	仏語学的考察(5)複合過去と半過去
第21回	仏語学的考察(6)大過去、単純過去、近接過去
第22回	仏語学的考察(7)単純未来と近接未来
第23回	仏語学的考察(8)受動態・代名動詞
第24回	言葉遊び(1)
第25回	言葉遊び(2)
第26回	後期テスト

授業方法

授業内容をスクリーンに映し出し、テーマに沿って講義をおこなう。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

フランス語の初級文法の教科書を復習しておくことが好ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第1学期最終授業及び第2学期最終授業時に持ち込み不可のテストを行う。
 毎回授業後に行う授業の復習を兼ねたコメントカードの提出、授業参加、授業態度なども成績評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のコメントカードに書かれた質問については、次回の授業で答え、フィードバックを行う。

教科書コメント

必要に応じてプリントにて配布

参考文献

冠詞の謎を解く,小田涼,白水社,2019
 La République et les langues,Michel Launey,Raison d'agir,2023
 Le bon usage,M.Grevisse,Duculot,2011
 フランス語とはどういう言語か,大橋保夫,駿河台出版,1993
 翻訳仏文法(上)(下),鷺見洋一,ちくま学芸文庫,2003

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
 授業中にスライドの写真を撮ることを禁止する

その他

フランス語圏文化学科の2年生、またはフランス語既習の1年生のみ履修可能。他学科の学生は履修不可。フランス語未習の学生は履修を認めない。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360201101	科目ナンバリング	036A202	単位	4
講義名	フランス語圏文化入門(舞台・映像)				
副題	フランス語圏の舞台・映像史				
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Theater & Films)				
担当者名	大原 宣久				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 1時限 中央-303				

授業概要

前期は、フランス語圏の映画史のおおまかな流れ、映画表現の変遷をたどっていきます。その変遷をよりよく理解するために、古今の名作を題材に、映画作品にどのような主題が選ばれ、どのような技法が使われ、どのような要素が盛り込まれているか、そしてそれらはいかにして統合され、どのような意味を作品に与えているか等について、考察していきます。

後期は、フランスにおける演劇・舞踊(バレエ)・オペラといった舞台芸術史をたどります。各ジャンルごとに、時代順に代表的な作品を紹介していく予定です。また、これら舞台芸術が文学・美術・音楽といった諸芸術とともに進化・発展していった過程を見ていきたいと思えます。

以上に関しては、実際の授業では概論的な説明やテキスト(台本)のみに頼るのではなく、なるべく実際の映画や映像を見ながら実感・体験していけるようにしたいと思います。

到達目標

- 1、映画史(とくにフランス語圏の映画)の変遷をおおまかに理解できるようになる。
- 2、フランスの舞台芸術史の変遷をおおまかに理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション——映画誕生
第2回	サイレント映画の時代
第3回	ルネ・クレール
第4回	ジュリアン・デュヴィヴィエ
第5回	ジャン・ルノワール
第6回	マルセル・カルネ(1)
第7回	マルセル・カルネ(2)
第8回	フランソワ・トリュフォー
第9回	ジャン＝リュック・ゴダール
第10回	ジャック・ドゥミ
第11回	エリック・ロメール
第12回	ヌーヴェルヴァーグ以降のフランス語圏映画(1)
第13回	ヌーヴェルヴァーグ以降のフランス語圏映画(2)
第14回	古典演劇(1)
第15回	古典演劇(2)
第16回	古典演劇(3)
第17回	ロマンティック・バレエ(1)
第18回	ロマンティック・バレエ(2)
第19回	ロマンティック・バレエ(3)
第20回	19世紀のオペラ(1)
第21回	19世紀のオペラ(2)
第22回	19世紀のオペラ(3)
第23回	19世紀のオペラ(4)
第24回	現代演劇(1)
第25回	現代演劇(2)
第26回	現代演劇(3)

授業計画コメント

以上はあくまで予定ですので、受講者の理解度などを考慮のうえ、順序・内容等、変更する可能性があります。

授業方法

講義

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

授業内で取り上げた映画作品については、授業後に通して見ておくことが望ましい。紹介した文献についても、授業前後に読んでおくことが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

期末試験以外に、出席、およびリアクションペーパーの内容を評価します。
なお、欠席・遅刻や授業中の私語・途中退席などが目立つ学生は減点するので注意すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容については、検討に値するものは授業内で随時紹介し、考察・講評をおこなう。

参考文献

フランス映画史の誘惑:集英社新書,中条省平,集英社,2003,9784087201796
映画とは何か(上):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357811
映画とは何か(下):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357828

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修できるのは、フランス語圏文化学科の1、2年生のみ。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360202101	科目ナンバリング	036A203	単位	4
講義名	フランス語圏文化入門(広域文化)				
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	長井 文				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 水曜日 2時限 北1-201				

授業概要

本講義では20世紀前半のフランスの歴史と文化を中心に、文学作品や映像資料を参照しつつ、フランスの歴史と文化の変遷をたどる。

19世紀末から20世紀にかけて、近代化が一気に推し進められたフランスでは、現在のフランスの原形が形成された。本講義ではフランス近代化の歩みを学習し、さらに社会的状況と文化的営為の関連を考えていきたい。

なお、本講義の中心テーマは20世紀前半のフランスであるが、1901年を境に社会がそれ以前の社会と大きく変わったわけではない。そのため、本講義では20世紀前半の政体であった第3共和政に関しては、19世紀後半の発足時からその政策を詳細に見ていく。そして20世紀前半以前のフランスの歴史についても、前期4回までの授業で簡単な解説を行う。

今年度は、授業時間内にパリにある美術館を紹介する10分程度のグループ発表をしていただくことを考えています。

到達目標

- ・フランスの歴史を通史で理解する。
- ・20世紀前半のフランスに生まれた芸術を知る。
- ・芸術作品や文化を、社会との関わりの中で考えられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	フランス史①: 近世から近代へ(フランス革命直後までのフランスの歴史概観)
第3回	フランス史②: 波乱万丈の19世紀①(第1帝政から第2帝政成立ごろまでのフランスの歴史概観)
第4回	フランス史③: 波乱万丈の19世紀②(第2帝政から第3共和政へ)
第5回	第3共和政下のフランス社会
第6回	第3共和政下のフランス文化①: ベル・エポックの象徴としてのパリ万博
第7回	第3共和政下のフランス文化②: ジャポニスムとアール・ヌーヴォー
第8回	第3共和政下のフランス文化③: 余暇の誕生、キャバレー、新聞
第9回	第3共和政下のフランス文化④: 政治化する文学、ドレフェス事件
第10回	第1次世界大戦①: 第1次世界大戦下のフランス
第11回	第1次世界大戦②: 第1次世界大戦後のフランス
第12回	第1次世界大戦直後のフランス
第13回	ふりかえり
第14回	前期の復習
第15回	両大戦間期のフランス①: 1920年代フランスの社会と文化
第16回	両大戦間期のフランス②: レ・ザネ・フォル、アール・デコ
第17回	両大戦間期のフランス③: 第1次世界大戦前夜の社会
第18回	第2次世界大戦②: 奇妙な戦争、大脱出
第19回	第2次世界大戦③: ヴィシー政府下の社会と文化
第20回	第2次世界大戦④: 自由フランス、レジスタンス運動
第21回	第2次世界大戦⑤: レジスタンス文学、パリ解放
第22回	第2次世界大戦直後のフランス: レジスタンス神話とその崩壊
第23回	第2次世界大戦後のフランス①: 第4共和政、冷戦、欧州連合、植民地問題
第24回	第2次世界大戦後のフランス②: 第5共和政、ド・ゴール、アルジェリア独立戦争
第25回	第2次世界大戦後のフランス③: アンフォルメル、実存主義文学、女流文学
第26回	ふりかえり

授業計画コメント

授業計画はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更となる場合があります。

授業方法

対面授業の場合は講義形式、遠隔授業の場合はLMSを使用して授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で紹介された文献を読んだり、映像資料を確認する(1~2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業中に配布するリアクションペーパーの内容やグループ発表の成果も評価に含めます。授業への積極的な参加を望みます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でコメントを行います。

教科書コメント

授業中は教師が用意した資料を使用します。原語がフランス語の資料を使用する際は、日本語訳を併記します。

参考文献

フランス史 下,福井憲彦=編,山川出版社,2021,9784634423909
はじめて学ぶフランスの歴史と文化,上垣豊=編,ミネルヴァ書房,2020,9784623087785
教養のフランス近現代史,杉本淑彦、竹中幸史=編,ミネルヴァ書房,2015,9784623072712
フランス文化読本,鈴木雅生=編,丸善出版,2014,9784621087466
よく分かるフランス近現代史,剣持久木,ミネルヴァ書房,2018,9784623082605

参考文献コメント

上記以外の参考文献は授業内で適宜紹介します。

履修上の注意

第1回授業には必ず出席してください。

その他

フランス語圏文化学科の1, 2年生のみ履修可。ただし、1, 2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認めます。

講義コード	U360203101	科目ナンバリング	036A204	単位	4
講義名	フランス語圏文化入門(文学・思想)				
副題	フランス語圏の文学の歴史				
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	岡部 杏子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 2時限 中央-404				

授業概要

中世から現代までのフランス語圏の文学の流れをたどりながら、代表的な作品の抜粋を読みます。受講者が、各々の興味にしたがって読書の幅を広げ、文学作品への理解を深めていく手がかかりとなることを期待します。文学作品を原作とした映画等を適宜紹介し、アダプテーションについても考察する機会を設けます。

到達目標

1. フランス語圏の文学史の大枠を捉え、自分の興味・関心に合った時代やジャンルの作品を見つけ出すことができる。
2. 文学史の背景となる歴史的・文化的知識を習得し、それを踏まえて作品を読解することができる。
3. 入門演習で習得した作法を用いて、論理的な文章でレポートを執筆することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	中世(1):武勲詩と宮廷風騎士道物語
第3回	中世(2):寓意と笑いの文学、中世(3):叙情詩
第4回	16世紀(1):ルネサンス期の文学
第5回	16世紀(2):プレイヤッド派の詩人たち
第6回	16世紀(3):モラリストの文学
第7回	17世紀(1):バロックから古典主義へ
第8回	17世紀(2):古典主義の美学、17世紀(3):新旧論争
第9回	18世紀(1):啓蒙思想家たち
第10回	18世紀(2):演劇の転換期
第11回	18世紀(3):回想録小説、書簡体小説、自伝文学、詩
第12回	前期のまとめ
第13回	到達度の確認
第14回	19世紀(1):ロマン主義の先駆者たち
第15回	19世紀(2):ロマン主義の詩と散文
第16回	19世紀(3):近代小説の誕生
第17回	19世紀(4):自然主義の文学
第18回	19世紀(5):近代詩の誕生と発展
第19回	20世紀(1):20世紀小説の誕生
第20回	20世紀(2):ダダとシュルレアリスム
第21回	20世紀(3):大戦間の文学
第22回	20世紀(4):大戦後の文学(1)
第23回	20世紀(5):大戦後の文学(2)
第24回	21世紀 フランス語圏の文学
第25回	後期のまとめ
第26回	到達度の確認

授業計画コメント

授業計画に沿って進めていきますが、授業の進度や受講者の興味に応じて内容や順序を変更することがあります。

授業方法

講義形式でおこないます。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

予習:事前に配布する資料を読み、自分の興味・関心にあう事柄について簡潔にまとめておくこと(60分)。
 復習:配布資料を読み直し、授業で学んだ作家に関連する書籍にできるだけ多く触れること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	前期レポート30%、後期レポート30%
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	リアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・レポート、リアクションペーパーの内容の充実度や文章表現の的確さ
- ・授業で扱った著者の別の作品や同時代の作家の作品への関心度の高さを評価のポイントとします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業の冒頭で、前回のリアクションペーパーを紹介、講評を加えてフィードバックします。

教科書

はじめて学ぶフランス文学史: はじめて学ぶ文学史3, 横山安由美・朝比奈美知子編著, ミネルヴァ書房, 2002, 9784623034901

教科書コメント

教科書に沿って進めますが、教員が作成した補足資料を配布する回もあります。

参考文献

- 新版 フランス文学史, 饗庭孝男ほか, 白水社, 1992, 9784560042861
フランス文学史, 編田村毅・塩川徹也編, 東京大学出版会, 1995, 9784130820448
フランス文学小事典, 岩根久ほか, 朝日出版社, 増補, 9784255011684
増補 フランス文学案内: 岩波文庫, 渡辺一夫・鈴木力衛編, 岩波書店, 1990

参考文献コメント

上記に挙げた文献になるべく多く触れておくことをおすすめします。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

フランス語圏文化学科の1、2年生のみ履修可。ただし、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生には履修を認めません。

講義コード	U360204101	科目ナンバリング	036A301	単位	4
講義名	フランス語圏文化講義(言語・翻訳)				
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	本間 幸代				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 2時限 北1-303				

授業概要

第1回目から第9回目までは、主にフランス語史の概観を通じフランス語の歴史的変化に関わってきた要因を確認する。次に、第10回目から第16回目にかけてフランス語の多様性や地域言語をめぐる問題について理解を深める。17回目以降は類義表現の使い分け基準について様々な具体例の分析を通じて考えるなど、主に語や表現の意味に関わる分野を中心に扱う。

到達目標

フランス語の歴史的変化に関わった要因について理解できるようになる。
ある言語の多様性、および言語接触が引き起こす様々な問題や影響について理解できるようになる。
様々な類義表現の使い分けができるようになる。
定説に対して批判的視点を持つことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション、フランス語の進化過程① イントロダクション、フランス語の進化過程①
第2回	フランス語の進化過程②
第3回	フランス語の進化過程③
第4回	フランス語の進化過程④
第5回	フランス語の進化過程⑤
第6回	フランス語の進化過程⑥
第7回	フランス語の進化過程⑦
第8回	ロマンス諸語におけるフランス語の特異性①
第9回	ロマンス諸語におけるフランス語の特異性②
第10回	フランスの地域言語①
第11回	フランスの地域言語②
第12回	振り返り①
第13回	振り返り②
第14回	フランス国外のフランス語①
第15回	フランス国外のフランス語②
第16回	フランス国外のフランス語③
第17回	謎の文法規則を深堀りする①
第18回	謎の文法規則を深堀りする②
第19回	類義表現の分析①
第20回	類義表現の分析②
第21回	類義表現の分析③
第22回	類義表現の分析④
第23回	類義表現の分析⑤
第24回	類義表現の分析⑥
第25回	振り返り①
第26回	振り返り② 振り返り②

授業計画コメント

状況に応じて授業計画の一部に変更が加えられる可能性あり。

授業方法

対面での講義。また必要に応じてグループ・ディスカッションを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布されたプリントがある場合は事前に読んでくること(1～2時間)。授業で指示を出します。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	100%	第12回目と第25回目の授業で実施。
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

評価方法に変更が加えられる場合は事前に告知します。

- ・欠席1回あたり総合点から1点減点。
- ・遅刻や早退等により授業を受けない時間が15分以上になる場合は欠席扱い。
- ・遅刻または早退1回あたり総合点から0.5点減点。15分以上の一時退出もこれに準ずる。
- ・8回以上欠席した場合、または3回以上連続して欠席した場合は単位取得不可(公欠の場合を除く)。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

中間テストの答案などは採点后返却します。

教科書

教科書コメント

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

- ロマンスという言葉,小林標,大阪公立大学共同出版会,初,2019,978-4907209957
ヨーロッパとゲルマン部族国家:文庫クセジュ,マガリ・クメール他,白水社,初,2019,978-4560510285
フランス語史を学ぶ人のために,ピーター・リカード(伊藤忠夫、高橋秀雄訳),世界思想社,2,1995,978-4790705413
南仏と南仏語の話,工藤進,大学書林,第3,1995,978-4475015707
コルシカの形成と変容:共和主義フランスから多元主義ヨーロッパへ,長谷川 秀樹,三元社,初,2002,978-4883031016

参考文献コメント

必要に応じてプリントを配布する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360205101	科目ナンバリング	036A302	単位	4
講義名	フランス語圏文化講義(舞台・映像)				
副題	フランス語圏の映画作家たち				
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Theater & Film)				
担当者名	須藤 健太郎				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 4時限 西2-402				

授業概要

フランス映画史に何か特異な点があるとすれば、それは「作家」という概念を発明したことにあります。この講義では、そのような仮説のもとに、映画生誕から現在にいたるまでフランス映画史を彩ってきた映画作家を毎回一人紹介していきます(フランス語が主に使用される映画を対象にするので、狭義の「フランス映画」には限りません)。歴史的な視点を重視しますが、講義は時代順ではなく、監督名のアルファベット順に進んでいきます。

到達目標

フランス映画史に関する基礎知識を習得し、フランス映画、ひいては映画芸術全般によりいっそうの親しみを持てるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	前期ガイダンス
第2回	映画作家A
第3回	映画作家B
第4回	映画作家C
第5回	映画作家D
第6回	映画作家E
第7回	映画作家F
第8回	映画作家G
第9回	映画作家H
第10回	映画作家I
第11回	映画作家J
第12回	映画作家K
第13回	前期まとめ／理解度の確認
第14回	後期ガイダンス
第15回	映画作家L
第16回	映画作家M
第17回	映画作家N
第18回	映画作家O
第19回	映画作家P
第20回	映画作家Q
第21回	映画作家R
第22回	映画作家S
第23回	映画作家T
第24回	映画作家U/V/W
第25回	映画作家X/Y/Z
第26回	後期まとめ／理解度の確認

授業計画コメント

上記の計画はあくまで目安であり、受講者の理解度等に合わせて随時調整されます。

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習・復習については、授業内で指示します。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の配分は目安であり、すべての項目において意欲的に取り組むことが求められます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内で行います。

参考文献

フランス映画史の誘惑, 中条省平, 集英社, 2003, 4-08-720179-1

参考文献コメント

その他、必要に応じて適宜指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360206101	科目ナンバリング	036A303	単位	4
講義名	フランス語圏文化講義(広域文化)A				
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	寺家村 博				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 1時限 中央-507				

授業概要

このクラスでは1年を通してフランス語圏という概念がもつ意味、そしてフランス語圏の国や地域の中で何かを表現するということがどのような意味を持ちうるのかを探っていきます。具体的には西ヨーロッパ、北米、アフリカなどに点在するフランス語圏の国や地域(フランスを含む)の現状を理解するとともにそれぞれの文化的特徴をテキストの訳読、さらにグループワーク、個人あるいはグループ発表を通して探っていきます。そして最終的に受講学生がフランス語圏を通してフランスをあらたに捉え直すという新しい視座を獲得することを目指します。

到達目標

フランスを内からだけではなく、外からも同時に理解する視点を持つことができる。フランス語圏の国々の社会、文化、言語政策などに関する知識を得ることができる。さまざまなタイプのフランス語の文章を翻訳する機会ともなる。またフランスを含むフランス語圏の社会的事象に関してグループで考え、その考えをまとめていくことで「社会」について受講生それぞれが自分の捉え方を持つようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	フランス社会に関するDVDからフランスの「外」と「内」を考える1
第3回	フランス社会に関するDVDからフランスの「外」と「内」を考える2
第4回	バカロレアの論述問題を考える1
第5回	バカロレアの論述問題を考える2
第6回	PACSについて考える1
第7回	PACSについて考える2
第8回	フランコフォニーに関する文章を精読する1
第9回	フランコフォニーに関する文章を精読する2
第10回	フランコフォニーに関する文章を精読する3
第11回	フランコフォニーに関する文章を精読する4
第12回	フランコフォニーに関する文章を精読する5
第13回	前期まとめの課題またはテスト
第14回	フランス語圏地域に関するグループ発表(西ヨーロッパ1)
第15回	フランス語圏地域に関するグループ発表(西ヨーロッパ2)
第16回	フランス語圏地域に関するグループ発表(西ヨーロッパ3)
第17回	フランス語圏地域に関するグループ発表(北米1)
第18回	フランス語圏地域に関するグループ発表(北米2)
第19回	フランス語圏地域に関するグループ発表(北米3)
第20回	フランス語圏地域に関するグループ発表(アフリカ1)
第21回	フランス語圏地域に関するグループ発表(アフリカ2)
第22回	フランス語圏地域に関するグループ発表(アフリカ3)
第23回	フランス語圏地域に関するグループ発表(その他地域1)
第24回	フランス語圏地域に関するグループ発表(その他地域2)
第25回	フランス語圏地域に関するグループ発表(その他地域3)
第26回	後期まとめの課題またはテスト

授業計画コメント

各回の授業テーマは受講者数、授業形態によって、必ずしも上記記載通りに完全に実施できるとは限らない。

授業方法

原則演習形式で実施していく。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

次回の授業のために配布したプリントや与えられたテーマに関して予め予習しておくこと(約1時間)

個人やグループ発表の際にでた質問等に関してはよく調べて、次回にフィードバックすること(約45分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	10 %	
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

グループワークや個人発表は重要な評価のポイントとなります。また同時に与えられた課題を的確にこなしていくことも大切になってきます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題を提出後、解説をして理解度を深める。

教科書コメント

プリントは授業時に配布するか、Web上にアップする。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください。
履修者制限あり、重複履修不可。

その他

連絡は対面時かWeb上でおこないます。

講義コード	U360206102	科目ナンバリング	036A303	単位	4
講義名	フランス語圏文化講義(広域文化)B				
副題	芸術とフランス文学				
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	石井 咲				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 水曜日 2時限 西1-307				

授業概要

この授業では、絵画・写真とフランス文学の関係性について知見を深める。絵画、風刺画、写真、広告などを具体的に取り上げながら、いかに社会がイメージを消費するのか、また人はいかにそれを味わうのか検討する。授業内では、毎回テキストの抜粋を配布し、全体で読解を行う。グループワークを通じて主体的に分析を行うことを目指す。

到達目標

作品をじっくり見たのち、視覚文化・芸術とフランスの作家らによって書かれた批評を読み、その結びつきを検討する。イメージに含まれる意味やメッセージを読み取り、分析することができる。さまざまな形式で書かれたフランス語の文章を翻訳することができる。グループワークなどクラスメイトとの意見交換を通じて、学生それぞれが自分で思考する力を養うことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション: イメージとはなにか
第2回	美術の歴史と芸術家による運動(1)
第3回	美術の歴史と芸術家による運動(2)
第4回	デイドロの「サロン」精読
第5回	ロマン主義とボードレー
第6回	写実主義と風刺
第7回	印象派(1): 印象派の革新性
第8回	印象派(2): ユイスマンスによる批評
第9回	印象派(3): ゴッダによる批評
第10回	セザンヌとその後の芸術運動: フォーヴィスム、キュビズム
第11回	キュビズム: アポリネールによる批評
第12回	ダダイズムとシュルレアリスム
第13回	講義のまとめ、期末試験
第14回	技術革新と写真というメディアの誕生: ベンヤミン『写真小史』、ボードレー「現代の公衆と写真」
第15回	写真について考える: ピエール・ブルデュ『写真論』
第16回	写真について考える: ロラン・バルト『明るい部屋』(1)
第17回	写真について考える: ロラン・バルト『明るい部屋』(2)
第18回	写真について考える: ロラン・バルト『明るい部屋』(3)
第19回	文学作品における写真の使用法: アニー・エルノー、エルヴェ・ギベール
第20回	写真の不在と記憶の結びつき: マルグリット・デュラス、パトリック・モディアノ、ジョルジュ・ペレック
第21回	現代における写真の使用法: 広告、雑誌の分析
第22回	写真の分析: 批判的思考を持つためには(1)
第23回	写真の分析: 批判的思考を持つためには(2)
第24回	写真の分析: 批判的思考を持つためには(3)
第25回	講義のまとめ
第26回	期末試験

授業計画コメント

それぞれの授業テーマは受講者数や授業の形態によって、必ずしも上記の通りに実施するとは限らない。

授業方法

毎回教員が学生の座席を変えて、グループワークを中心に授業を行っていく。学生には発言による参加を求めるため、原則として演習形式で実施する。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

授業で配布したプリントをよく読み、また事前に課された宿題を行うこと(1時間)

授業内でポイントとなった点を振り返り、必要であればよく調べ、自分なりに捉え直しておくこと(30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)	10 %	後期に授業内でレポートまたは発表を課します。

成績評価コメント

教員は学生の出欠・遅刻、発言数を毎回記録する。教室に「いる」だけでは参加とみなされないので、発言やコメントペーパーでのフィードバックの取り組みが重要となることを留意してほしい。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でフィードバックを行う。

教科書コメント

教員が作成したプリントを配布する。

参考文献コメント

参考文献については授業内で適宜紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。
履修者制限あり(希望する学生が多い場合は初回でテストを行う)、重複履修不可。

その他

教員の連絡先は第1回目の授業で周知する。

講義コード	U360207101	科目ナンバリング	036A304	単位	4
講義名	フランス語圏文化講義(文学・思想)				
副題	フランス文化と「ユダヤ人」				
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	鈴木 重周				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 3時限 西1-301				

授業概要

この授業は、ヨーロッパ社会におけるマイノリティ(社会的少数者)としての「ユダヤ人」に着目し、かれらがどのような存在であったのかを、フランスを中心としたヨーロッパの芸術作品(文学、絵画、戯曲等)を通して考えることを目的とします。「ユダヤ人」について考えることは、歴史上常に周縁に追いやられてきた存在をめぐる差別の構造に気づくことでもあります。また、「ユダヤ人」が芸術作品の担い手となった時にどのような軋轢が起こったのかを学ぶことで、現代の日本に生きる私たちにとってもさまざまなマイノリティ(女性、性的少数者等)をめぐる問題が無関係ではないことを知ることができます。

到達目標

- ・ヨーロッパの「ユダヤ人」をめぐる歴史に関する基本的知識を身に付ける。
- ・文化表象におけるマイノリティをめぐる差別の構造を理解する。
- ・授業内容を自身の問題意識に引きつけコメントすることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の進行や成績評価に関するガイダンス、1:ユダヤ人とは誰か
第2回	2:描かれるふたりの「ユダヤ人」:シェイクスピア『ヴェニス商人』
第3回	3:描かれるふたりの「ユダヤ人」:シェイクスピア『ヴェニス商人』
第4回	4:1492年とスペインの異端審問:ベラスケス「侍女たち」、ドストエフスキー「大審問官」
第5回	5:「美しきユダヤ女」としてのレベッカ:スコット『アイヴアンホー』
第6回	6:「美しきユダヤ女」としてのレベッカ:スコット『アイヴアンホー』
第7回	7:サロメという少女:モロー『出現』、フロベール「ヘロディアス」
第8回	8:サロメという少女:ワイルド『サロメ』、ピアズリー「クライマックス」
第9回	9:ある眼差しの誕生とオリエンタリズム:ドラクロワ『サルダナパールの死』、サイード『オリエンタリズム』
第10回	10:「具現化したユダヤ女」サラ・ベルナール:ミュシャ「ジズモンダ」
第11回	11:カミーユ・ピサロの選択:ピサロ『海辺でおしゃべりをするふたりの女性』
第12回	12:バル・エポックの影としてのドレフュス事件:ポランスキー『オフィサー・アンド・スパイ』ドレフュス事件をいかに描くか:プルースト『失われた時を求めて』
第13回	理解度の確認
第14回	13:「私は告発する」:ゾラ『ルーゴン=マッカール叢書』、「大統領フェリックス・フォール閣下への公開書簡」
第15回	14:ドレフュス事件をいかに描くか:プルースト『ゲルマントの方』
第16回	15:ドレフュス事件をいかに描くか:シュウオブ『少年十字軍』
第17回	16:ここではないどこかへ:シュウオブ『サモア書簡』、ステイーヴンソン『宝島』
第18回	17:ここではないどこかへ:ゴーギャン『我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこに行くのか』、モーム『月と六ペンス』
第19回	18:戦争の時代とユダヤ人芸術家
第20回	19:戦争の時代とユダヤ人芸術家
第21回	20:祖父母をめぐる物語:ジャブロンカ『私にはいなかった祖父母の歴史』
第22回	21:祖父母をめぐる物語:スコヴロネク『私にぴったりの世界』
第23回	22:ヴィシー政権のユダヤ人狩り:ベレスト『ポストカード』
第24回	23:ヴィシー政権のユダヤ人狩り:ベレスト『ポストカード』
第25回	24:フランスにとどまったユダヤ人
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

受講者の関心やアクチュアリティに応じて授業内容を変更や修正することがあります。

授業方法

対面で行います。基本的にはスライドを用いた講義ですが、できるかぎり受講者の皆さんとの対話形式で授業を進める予定です。毎授業後にレスポンスペーパー(300字程度)をLMSから提出してもらいます。必ず自筆ノートをとるようにしてください(理由の無い限りデバイスの使用は禁止します)。理解度試験では自筆ノート(自分で書いたもの、コピペや切り貼り等不可)の持ち込みを可とする予定です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の配布資料に目を通し自筆ノートにまとめる。1時間程度。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)	40 %	レスポンスペーパー

成績評価コメント

レスポンスペーパーの提出をもって出席にします。

理由のない遅刻や欠席、居眠り、私語その他の授業に関係のない行為は減点の対象となります。

詳しくは初回授業でお話します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業開始時に前回授業についての受講者からのレスポンスペーパーにコメントする時間を設けます。

参考文献

はじめて学ぶフランス文学史,横山安由美ほか,ミネルヴァ書房,2002,9784623034909

フランス文学の楽しみかた,永井敦子ほか,ミネルヴァ書房,2021,9784623090761

篠沢フランス文学講義1-5,篠沢秀夫,大修館書店,1979,9784469250169

新しく学ぶフランス史,平野千果子,ミネルヴァ書房,2019,9784623085989

ユダヤとは何か,市川裕ほか,CCCメディアハウス,2012,9784484122380

参考文献コメント

購入の必要はありませんが、授業理解に役立ちますので書店や図書館で手に取ってみてください。他の文献に関しては授業内で随時紹介します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

この授業で学ぶことが受講者自身の真摯な問題意識とつながることを期待しています。

フランス語圏文化学科の講義ですが、テーマに関心のある学生であれば学部学科を問わずどなたでも歓迎します。

講義コード	U360208101	科目ナンバリング	036A401	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)A				
副題	2012年以降のフランス語圏文学と翻訳				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	野村 昌代				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 2時限 西1-210				

授業概要

現代のフランス語圏文学(2012年以降)の注目作・秀作とそれぞれの作家の解説を行います。学生は抜粋を各自で翻訳します。作品は主に小説ですが、適宜BDや人文科学書にも言及します。授業中に動画、画像、音声資料を参照します。それぞれが初版刊行当時に好評を博した、そして主要な文学賞を受賞した作品ですので、作家、当時の社会、文化、文学潮流を概観することによって過去14年のフランス語圏文学の注目すべき傾向をテーマごとに確認します。講義とともに、実際に原文の抜粋を翻訳します。さまざまな作家による原文を訳することで、現代の文学作品の文体を経験します。また翻訳の意義についての各自の意識を育みます。

到達目標

- 現代フランス語圏文学作品の訳読を通じて、
- 1) 2, 3年次までに習得した文法の知識を確認し、実際の作品を自立して読むことができるようになること
 - 2) 文法の正確な知識に基づき、現代文学の文体を学び、その応用として適切な翻訳を行う技術を身に付けること
 - 3) 作品の読解と作品の周辺の知識を得ることで、現代フランス語圏の社会・文化の中心的問題の知識を深めること

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション : 授業の説明、既習文法の確認
第2回	『ヌヌ 完璧なベビーシッター』 La Chanson douce de Leila Slimani ① 作者と作品
第3回	『ヌヌ 完璧なベビーシッター』 La Chanson douce de Leila Slimani ② 作品翻訳(抜粋)
第4回	『ヨーゼフ・メンゲレの逃亡』 La Disparition de Josef Mengele d'Oivier Guez ① 作者と作品
第5回	『ヨーゼフ・メンゲレの逃亡』 La Disparition de Josef Mengele d'Oivier Guez ② 作品翻訳(抜粋)
第6回	『本当の人生』 La Vraie vie d'Adeline Dieudonné ① 作者と作品
第7回	『本当の人生』 La Vraie vie d'Adeline Dieudonné ② 作品翻訳(抜粋)
第8回	『三つ編み』 La Tresse de Laetitia Colombani ① 作者と作品
第9回	『三つ編み』 La Tresse de Laetitia Colombani ② 作品翻訳(抜粋)
第10回	『ナイルの聖母』 Notre Dame du Nil de Scholastique Mukasonga ① 作者と作品
第11回	『ナイルの聖母』 Notre Dame du Nil de Scholastique Mukasonga ② 作品翻訳(抜粋)
第12回	「現役プロ翻訳者を招いて」 フランス文学・BD翻訳家の大西愛子氏とともに(招待予定)
第13回	達成度の確認、第1学期のまとめと総括
第14回	『狂女たちの舞踏会』 Le bal des folles de Victoria Mas ① 作者と作品
第15回	『狂女たちの舞踏会』 Le bal des folles de Victoria Mas ② 作品翻訳(抜粋)
第16回	『異常(アノマリー)』 L'Anomalie de Hervé Le Tellier ① 作者と作品
第17回	『異常(アノマリー)』 L'Anomalie de Hervé Le Tellier ② 作品翻訳(抜粋)
第18回	『うけいれるには』 S'adapter de Clara Dupont-Monod ① 作者と作品
第19回	『うけいれるには』 S'adapter de Clara Dupont-Monod ② 作品翻訳(抜粋)
第20回	『人類の深奥に秘められた記憶』 La plus secrète mémoire des hommes de Mohamed Mbougar Sarr ① 作者と作品
第21回	『人類の深奥に秘められた記憶』 La plus secrète mémoire des hommes de Mohamed Mbougar Sarr ② 作品翻訳(抜粋)
第22回	『彼女を見守る』 Veiller sur elle de Jean-Baptiste Andrea ① 作者と作品
第23回	『彼女を見守る』 Veiller sur elle de Jean-Baptiste Andrea ② 作品翻訳(抜粋)
第24回	『若い男』 Le Jeune homme de Annie Ernaux, 作者と作品
第25回	達成度の確認
第26回	第2学期のまとめと総括

授業計画コメント

授業の各回の進捗状況、その他を考慮して取り扱う作品の変更があり得ます。

授業方法

対面で行います。(講義と演習)

受講者は、自分で調べた語彙、文法事項を含めて訳文を用意し、担当部分は授業でフランス語で音読し、訳文を発表します。その

後、教員が質問、解説を行います。また検討すべき点については全員によるディスカッションをします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習: 各回で指定されたテキストを和訳しておくこと、必要な語彙と文法事項を質問に備えてきちんと調べておくこと。テキスト朗読をし、事前に読みと発音の練習をしておくこと。(朗読の音源がある場合はそちらを聞いて練習してください)(1時間半から2時間程度)

復習: 作成した訳文の修正・清書、授業で解説した内容、語彙、文法事項を復習しノートに整理すること。正しい朗読と発音の復習をし、確認すること。(1時間半程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・正しい発音で音読できること。
 - ・正しい語彙を把握し、適切な文法事項を理解した上で和訳できていること。翻訳を意識して訳すこと。
 - ・教員の授業内容についての質問にできるだけ考えて真摯に回答すること。
 - ・訳文の検討についてのディスカッションに積極的に参加すること。
- 以上を総合評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内で課題・試験の解説を行います。

教科書コメント

教科書はありませんが、翻訳するテキストは教師が用意します。
資料は教師が作成します。

参考文献

- 新フランス文法事典, 朝倉季雄、木下光一、白水社、2002、978-4560000373
フランス語ハンドブック(新装版), 新倉俊一ほか、白水社、2024、978-4560099773
翻訳仏文法 上: ちくま学芸文庫、鷺見洋一、筑摩書房、2003、978-4480087911
翻訳仏文法 下: ちくま学芸文庫、鷺見洋一、筑摩書房、2003、978-4480087928

参考文献コメント

初級、中級文法を学んだ教科書を適宜持参し、授業中にも参照できるようにしておいてください。
仏和辞典は中辞典以上、仏仏辞典、類語辞典も必要に応じて各自で持参すると使い方の練習にもなりますし、有用です。
参考書を含め、授業中に使い方方を説明します。
その他の参考資料も適宜授業中に紹介します。

履修上の注意

履修者数制限あり。(25名)
第一回めの授業には必ず参加すること。

その他

各回で指定されたテキストは、必ず自分で翻訳してから(予習)授業に臨んで下さい。授業中にその時間はありません。
発表担当とされた和訳がある場合は、必ず出席してください。発表は評価の対象です。(欠席する予定がある場合は前々回の授業までにお知らせください)

講義コード	U360208102	科目ナンバリング	036A401	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)B				
副題	翻訳入門				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	横川 晶子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 月曜日 5時限 西2-403				

授業概要

フランス語を日本語に翻訳するための知識と能力を習得するために、第1学期の授業では平易で短い文章を多く訳し、翻訳に関する基礎的な事柄を学習します。第2学期の授業では、フランスで実際に読まれている文章の日本語訳に取り組み、翻訳の実践を試みます。フランス語圏の最新の文化事情を反映するテキストの読解を通じて、フランス語圏のアクチュアリティーにも触れます。また翻訳研究に関して知っておくべき研究倫理についても学びます。

到達目標

フランス語と日本語の言語としての本質的な相違点を理解し、高度な読解と論述の能力、翻訳に必要な知識と実践的な技術を身につけます。また、単なる仏文和訳と翻訳はどう違うのか、良い訳文とはどのようなものか、文章の性格や目的によって訳がどう変わるのかなどを認識できるようになります。さらに、フランス語圏のテキスト読解を通じて国際的な視野を身につけます。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方について
第2回	人称代名詞、固有名詞、普通名詞
第3回	形容詞、副詞
第4回	前置詞(句)
第5回	動詞、関係代名詞
第6回	会話体の文章
第7回	説明の文章(1) 文体
第8回	説明の文章(2) 語彙
第9回	日記及び手紙の文章
第10回	児童書(1) 文体
第11回	児童書(2) 語彙
第12回	児童書(3) 描写
第13回	総括
第14回	第1学期レポートについて確認及び解説
第15回	平易な小説(1) 文体
第16回	平易な小説(2) 描写
第17回	料理のレシピ(1) 語彙
第18回	料理のレシピ(2) 表現
第19回	映画の字幕(1) 制作方法
第20回	映画の字幕(2) 実践
第21回	新聞・雑誌の文章(1) 語彙
第22回	新聞・雑誌の文章(2) 文体
第23回	現代小説(1) 人称及び時制
第24回	現代小説(2) 描写及び叙述
第25回	現代小説(3) 意識について
第26回	総括

授業方法

授業内容に沿ったフランス語のテキストを毎回配布し、訳の担当者を決めます。担当者は次の授業の前に訳文を作成して提出してください。次の授業では講師がテキストについて説明をおこない、提出された訳文を検討するとともに、担当者や授業参加者にコメントや意見を求めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

課題の訳を担当する学生は締切日までに訳文を作成して提出してください。担当でない学生も事前に訳文の作成を試みてください。(1時間～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、平常点(授業内の課題)及びレポート(学期末に実施)により総合的に評価します。授業での説明をもとに、テキストの内容を正確に把握し、不明点を調査し、的確な日本語で訳文を作成しているかどうかを評価のポイントとします。また、指定された期日内に訳文を提出することも重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の課題については毎回の授業で解説を行いコメントをします。第1学期のレポートについては、第2学期の初回授業で解説コメントを伝えます。

教科書コメント

毎回の授業でプリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて教室で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課題の訳文をMoodleにより提出してもらおうのでPC環境を整えておいて下さい。個別の連絡はメールで対応します。

講義コード	U3602081Z1	科目ナンバリング	036A401	単位	4
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)				
副題	Production écrite				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	DERIBLE, Alberic Dany Ser				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 4時限 仏文院生室				

授業概要

Chaque séance de cours se déroulera en trois temps. Les étudiants mèneront tout d'abord une analyse des caractéristiques d'un genre particulier d'écrit et s'exerceront ensuite à manipuler les outils linguistiques qui lui sont spécifiques. Dans un troisième et dernier temps, ils produiront, avec l'aide de l'enseignant et sur le modèle du texte analysé en première partie, un exemple de cet écrit. Seront abordés au cours du semestre divers média tels que : la presse, la littérature et la correspondance.

到達目標

Se familiariser avec les différents genres d'écrit. Analyser les structures spécifiques à chaque type et s'y conformer lors de la production, tant au niveau de la forme (vocabulaire thématique et structures grammaticales) que dans le fond (les actes de parole exprimés). Les étudiants s'essaieront ainsi aux techniques de l'écriture journalistique, littéraire et de la correspondance.

授業内容

実施回	内容
第1回	L'ARTICLE DE PRESSE
第2回	Présentation des concepts opératoires pour l'analyse de texte
第3回	Le texte argumentatif
第4回	Les connecteurs logiques
第5回	La structure d'un article de presse
第6回	Le courrier des lecteurs
第7回	L'expression de l'opinion, le subjonctif
第8回	Un article pour le journal de l'université
第9回	Répondre à un éditorial, faire un commentaire sur un sujet d'actualité
第10回	Évaluation 1, Production écrite : donner son opinion sur un forum en ligne
第11回	LE ROMAN
第12回	Le synopsis
第13回	Les caractéristiques du roman
第14回	L'incipit
第15回	La concordance des temps
第16回	L'extrait de roman
第17回	Le passé simple
第18回	Le discours rapporté
第19回	Les règles de la ponctuation française
第20回	Évaluation 2 : présenter son roman préféré (synopsis et opinion)
第21回	LES AUTRES GENRES D'ECRIT (LE RECIT AUTOBIOGRAPHIQUE, LA LETTRE, LE MAIL)
第22回	Le souvenir
第23回	Le journal de bord, le récit d'aventure
第24回	L'imparfait et le passé composé
第25回	Les formules de politesse de début et de fin de correspondance
第26回	Le mail : accepter l'invitation d'un(e) ami(e), demander des informations sur une sortie

授業方法

Les classes se dérouleront en présentiel. Après une première partie consacrée à l'analyse des différents types de texte, les étudiants seront guidés dans leur production personnelle d'un type particulier d'écrit.

使用言語

日本語・Français

準備学習(予習・復習)

Aucune préparation préalable n'est attendue des étudiants suivant ce cours, seules l'assiduité et la participation en classe sont obligatoires.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	90 %	3 évaluations par semestre de cours
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	Assiduité et participation en classe
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

L'évaluation portera principalement sur la production individuelle de trois types d'écrit : un texte argumentatif sur un sujet de société, le résumé et l'analyse littéraire et la correspondance officielle.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

L'enseignant donnera un feed-back général sur les productions écrites des étudiants à chaque séance et donnera des conseils individuels selon les besoins et les problèmes de chacun.

この授業は、学部生・院生双方がりしゅうできるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

教科書コメント

Aucun manuel ne sera utilisé dans cette classe. L'enseignant fournira pour chaque séance une fiche de travail idoine.

履修上の注意

履修制限あり(25名)。/第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U3602081Z2	科目ナンバリング	036A401	単位	4
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)				
副題	日常言語について考える				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	中尾 和美				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 2時限 西2-304				

授業概要

言葉は力である。同じ伝達内容であっても、言葉の使われ方によって相手の反応も異なる。この授業では、日常的によく使用される言葉をさまざまに考察する。前期は、語用論的な視点から、身近な言語形式や表現を取り上げ、文脈や発話状況との関連から考える。後期は、社会と言語の関わりを外観する。具体的には、20世紀後半に始まった女性の可視化、公共表示や広告で使用される言葉を分析する。

定期的に参加者の発表を予定し、それがレポート執筆につながるように指導する。フランス語で書かれたテキストを随時読みたいと考えているが、学部と大学院の乗り合わせの授業なので、参加者の興味やレベルに応じて臨機応変に対応する予定である。

到達目標

フランス語の様々な表現を習得すること、言語分析を行うこと、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明
第2回	指令を与える
第3回	命令文
第4回	間接発話行為
第5回	尋ねる
第6回	疑問文
第7回	一人称代名詞
第8回	二人称代名詞
第9回	挨拶
第10回	お礼
第11回	授業発表(1)
第12回	授業発表(2)
第13回	授業発表(3)
第14回	包括書法と女性の可視化(1)
第15回	包括書法と女性の可視化(2)
第16回	包括書法と女性の可視化(3)
第17回	公共表示で使われる言説(1)
第18回	公共表示で使われる言説(2)
第19回	公共表示で使われる言説(3)
第20回	広告で使われる言説(1)
第21回	広告で使われる言説(2)
第22回	広告で使われる言説(3)
第23回	まとめ
第24回	授業発表(1)
第25回	授業発表(2)
第26回	授業発表(3)

授業方法

フランス語について講義をすると同時に、用例を分析し、議論していく演習方式。フランス語のテキストを読むこともある。参加者の発表も適宜行う。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

テキスト講読では、担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。授業発表では、他の参加者の

発表について活発に議論することが求められる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

この授業は、学部生・院生双方が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業発表をレポート執筆に繋げる。

教科書コメント

授業で講読するテキストは、授業中に指示する。

参考文献

フランス語の発想,春木仁孝・岩男考哲,くろしお出版,2021

Les actes de langage dans le discours,C. Kerbrat-Orecchioni,Armand Colin,2008

Les formes de l'injonction écrite dans l'espace public,F. Lefevre ,Presses universitaires de Caen,2025

L'argumentation publicitaire,Adam J.M.&M.Bonhomme,Armand Colin,2012

L'implication du récepteur dans les énoncés de l'espace public,F.Dhorne,Peter Lang,2024

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	U360209101	科目ナンバリング	036A402	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)A				
副題	映画・映像をめぐって				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)				
担当者名	福島 勲				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 5時限 西1-214				

授業概要

主にフランス映画に関連する文献をフランス語で読んでいきます。履修者の興味にしたがって柔軟に対応していく予定ですが、原則としては、映画・映像に関する批評や映画作家の映像論(ゴダール、デュラス、バザン等々)を読むことを考えています。また、履修者の興味にしたがって、各学生が選んだ作品についての発表の機会も作りたいと思います。

到達目標

映画・映像を語るための批評言語や批評のための複数的な視点を獲得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション: 教員・学生相互の自己紹介と読解テキスト(文献)の決定
第2回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 1
第3回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 2
第4回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 3
第5回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 4
第6回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 5(希望に応じて学生発表)
第7回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 6(希望に応じて学生発表)
第8回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 7(希望に応じて学生発表)
第9回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 8(希望に応じて学生発表)
第10回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 9(希望に応じて学生発表)
第11回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 10(希望に応じて学生発表)
第12回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 11(希望に応じて学生発表)
第13回	到達度の確認(中間)
第14回	イントロダクション
第15回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 12(希望に応じて学生発表)
第16回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 13(希望に応じて学生発表)
第17回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 14(希望に応じて学生発表)
第18回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 15(希望に応じて学生発表)
第19回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 16(希望に応じて学生発表)
第20回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 17(希望に応じて学生発表)
第21回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 18(希望に応じて学生発表)
第22回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 19(希望に応じて学生発表)
第23回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 20(希望に応じて学生発表)
第24回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 21(希望に応じて学生発表)
第25回	テキスト(文献)の輪読と解説、ディスカッション 22(希望に応じて学生発表)
第26回	到達度の確認(通年)

授業計画コメント

映画・映像がメインとなり、舞台についてはほとんど扱いません。

授業方法

演習

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

テキスト(文献)で扱われている作品の鑑賞が必要となる場合があります。その場合、作品ごとに事前に2時間程度の予習時間が必要となります。また、テキスト(文献)の輪読を本授業の核としますので、毎回、その事前の購読が求められます。この事前学習には、大体、90分程度がかかります。また、授業後の復習に30分程度、必要となります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト	30 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

①興味を持って、毎回授業に参加すること。②ディスカッションでは積極的に、かつ、他の参加者の意見を尊重し、それらとの比較をしながら自分の視点を明確に表現できること。③担当回にはしっかりと準備をしてのぞむこと。④関係する映画・映像・テキスト(文献)を自発的に見つけ、吸収できること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業期間内であれば、授業中に、また、到達度確認のレポート等においては、コメントによってフィードバックを行う。

教科書コメント

使用テキストについては、初回の授業で提示する。いずれにしても、コピーを用いる予定である。

参考文献コメント

参考文献についても授業内で指示する。

履修上の注意

一方的な講義ではなく演習、つまりは、教員と学生たちとの会話ないし対話形式で進むので、そのつもりで参加して欲しい。履修者数制限あり(25名)。第一回目の授業に必ず出席すること。

その他

フランス語は読むことになるので、そのつもりで参加して欲しい。

講義コード	U360209102	科目ナンバリング	036A402	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)B				
副題	演劇・オペラ・バレエ・サーカスはなぜ分かれたのか				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)				
担当者名	横山 義志				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 3時限 北1-306				

授業概要

演劇はなぜ歌ったり踊ったりアクロバティックな動きをしたりしないジャンルになったのでしょうか。この背景には、フランスでこれらのジャンルが制度的に定められていったことがあります。その経緯を知ることは、フランス舞台芸術史の全容を把握するために不可欠なのですが、複数のジャンルをまたぐことになるので、総合的な研究があまりありません。この授業では、このようなジャンルの分離がどのようにして成立したのか、現代から時代をさかのぼって見ていきたいと思えます。参加者には輪読形式でフランス語の原典を訳してもらい、毎回解説者を選んで解説してもらいます。最後に講師からもフィードバックをいたします。

フランスや日本で、各分野で活躍するゲストの方にも、その意味について一緒に考えていただく機会、実際に舞台を見ていただく機会もつくる予定です。フランス語のコミュニケーションに慣れていただくため、授業の一部をフランス語で行います(その場合、なるべく翻訳も入れます)。あまり触れる機会がなかったかもしれない古いフランス語にもチャレンジしてみましょう(わからなくて当たり前ですし、私にも分からないことが多々ありますので、みんなで一緒に考えてみましょうね)。参加者からのご提案も歓迎です。

講師はフランスを中心とした西洋演劇史をバリで学び、研究をつづけつつ、劇場で働いています。すでに演劇史や舞台芸術の現場に興味がある方はもちろん、まだ触れたことがないという方の参加も歓迎いたします。

到達目標

- ・フランス舞台芸術史の概要を知り、現代の舞台芸術諸ジャンルとの関係を考えられるようになること。
- ・フランス語による現代の資料・歴史的資料を読解するためのツールを使いこなし、説得力のある発表を行えるようになること。
- ・テキストと実際の作品との関係について考えられるようになること。
- ・参加者にとって有益な形でディスカッションに参加する能力を身につけること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション・現代サーカスについて
第2回	フィールドワーク(1)
第3回	フィールドワーク(2)
第4回	ゲストトーク(現代サーカス関係者を予定)
第5回	アヴィニオン演劇祭のプログラムを読む(1) 演劇
第6回	アヴィニオン演劇祭のプログラムを読む(2) ダンス他
第7回	ルソー『ダランベールへの手紙』(1758)を読む
第8回	コンディヤック『人間認識起源論』(1746)を読む
第9回	コメディ＝フランセーズ設立の王令(1680)を読む
第10回	王立音楽アカデミー設立の公開勅許状(1672)を読む
第11回	モリエール『町人貴族』(1670)を読む
第12回	モリエール『町人貴族』(Benjamin Lazar演出, 2005)を見る(DVD)
第13回	王立オペラアカデミー設立の公開勅許状(1669)を読む
第14回	「王立舞踊アカデミー設立の公開勅許状」(1661)を読む
第15回	「俳優の職業に関する宣言」(1641)を読む
第16回	ゲストトーク(バロック演劇関係者を予定)
第17回	アルポー『オルケゾグラフィ』(1589)を読む
第18回	ボージョワイユール『王妃のバレエ・コミック』(1581)を読む
第19回	『アダム劇』を読む(12世紀後半)
第20回	関連テーマ発表(1)
第21回	関連テーマ発表(2)
第22回	関連テーマ発表(3)
第23回	関連テーマ発表(4)
第24回	関連テーマ発表(5)
第25回	関連テーマ発表(6)
第26回	関連テーマ発表(7)・まとめ

授業計画コメント

参加者からの提案、ゲストの都合や講師の都合(海外招聘担当のため海外出張もあります)等により、授業の内容や日程が変更になる可能性があります。

授業方法

- 基本的には対面授業・演習形式ですが、都合によりオンラインで授業を行う可能性もあります。また、遠隔からオンラインでゲストトーク等を行う可能性もあります。
- 「読む」回は参加者に一文ずつ原文を読み、訳してもらいます。また解説者1組(原則2人)を事前に決め、内容の解説を(調べと想像が及ぶ範囲で)準備していただきます。参加者の翻訳が発表者の解釈と異なる場合には指摘してください。解説者による解説のあと、講師からフィードバックをいたします。
- ゲストのお話をうかがう回では火曜日までにSlackに事前に質問を書き込んでもらい、それをもとに当日ディスカッションします。(フランス語話者がゲストの場合には、コミュニケーションの練習をするいい機会ですので、フランス語で書いてみてください。間違いがあっても減点も訂正もしません。)
- フランス語圏の舞台芸術に関するテーマ発表は、一人でも複数で行ってもかまいません。レジュメを水曜日までにアップしてください。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

毎回1時間程度、資料を読んで質問やコメントを書き込むなど、準備をしてきていただく必要があります。発表時などには数時間の準備を想定してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末・学年末レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	25 %	授業への参加度
その他(備考欄を参照)	45 %	解説・テーマ発表

成績評価コメント

- 0) 授業への参加度(年間で評価):25% ※出席ではなく翻訳やゲストへの質問で評価します
- 1) 解説:30%(15%x2回) 評価基準:議論の説得力、内容や資料の扱い方の適切さ
- 2) テーマ発表:15%(1回) 評価基準:議論の説得力、内容や資料の扱い方の適切さ
- 3) 学期末レポート:30%(15%x2回) 評価基準:授業の理解度、選んだ主題の興味深さ、説得力

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表やレポートについては、主に授業中にフィードバックをしていきます。

教科書コメント

資料は授業内で配付します。

参考文献

- フランス演劇史概説 新装版,岩瀬孝他,早稲田大学出版部,1999,978-4657995216
演劇の歴史:文庫クセジュ 923,アラン・ヴィアラ,白水社,2008,978-4560509234
バレエの世界史-美を追求する舞踊の600年:中公新書 2745,海野 敏,中央公論新社,2023,978-4121027450
フランス・オペラの魅惑 舞台芸術論のための覚え書き,澤田 肇,上智大学出版,2013,978-4324094037
サーカスに逢いたいーアートになったフランスサーカス,田中 未知子,現代企画室,2009,978-4773809039

参考文献コメント

解説・テーマ発表では必ず学術書・学術論文等を参照し、参照文献を明記してください。フランス舞台芸術史に関する日本語資料は限られているので、フランス語資料の利用を推奨します。

履修上の注意

- 履修者数制限あり(25名)。
- 第一回目の授業に必ず出席すること。
- 観劇や映像鑑賞も行う予定です。
- テーマやスケジュールは現時点で把握できている公演予定等にもとづいていますが、ゲストの都合や参加者からの提案等、状況に応じて変更の可能性がありますのでご了承ください。

その他

Slackとメールを使用します。

講義コード	U3602091Z1	科目ナンバリング	036A402	単位	4
講義名	◇フランス語圏文化演習(舞台・映像)				
副題	Tragédies bibliques (Suite)				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)				
担当者名	MARE, Thierry				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 3時限 仏文院生室				

授業概要

Après "Abraham sacrificant" de Théodore de Bèze et "Les Juifves" de Robert Garnier, nous allons poursuivre l'exploration du théâtre religieux des XVIe-XVIIe siècle avec les deux dernières pièces de Jean Racine (1639-1699), "Esther" (1689) et "Athalie" (1691), composées à la demande de Madame de Maintenon pour l'édification des jeunes filles du Collège de Saint-Cyr.

到達目標

Ecrites plus de dix ans après "Phèdre" et le renoncement de Racine au théâtre (pour des raisons religieuses, politiques et sans doute aussi esthétiques), ces deux ouvrages présentent de notables différences avec les autres tragédies de leur auteur : en particulier la présence de parties chorales, commodes pour employer le plus grand nombre de jeunes élèves à la représentation, et qui renouent aussi bien avec le modèle antique qu'avec les imitations qui en avaient été proposées à la Renaissance.

C'est aussi pour cette raison que nous lirons ces deux pièces à rebours de leur ordre chronologique, et "Athalie" avant "Esher".

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Présentation générale 1 : Tragédie française et théâtre religieux. |
| 第2回 | Présentation générale 2 : Le théâtre classique et l'oeuvre de Racine |
| 第3回 | Lecture d'"Athalie".1 |
| 第4回 | Lecture d'"Athalie".2 |
| 第5回 | Lecture d'"Athalie".3 |
| 第6回 | Lecture d'"Athalie".4 |
| 第7回 | Lecture d'"Athalie".5 |
| 第8回 | Lecture d'"Athalie".6 |
| 第9回 | Lecture d'"Athalie".7 |
| 第10回 | Lecture d'"Athalie".8 |
| 第11回 | Lecture d'"Athalie".9 |
| 第12回 | Lecture d'"Athalie".10 |
| 第13回 | Lecture d'"Athalie".11 |
| 第14回 | Lecture d'"Athalie".12 |
| 第15回 | Lecture d'"Athalie".13 |
| 第16回 | Lecture d'"Athalie".14 |
| 第17回 | Lecture d'"Athalie".15 |
| 第18回 | Lecture d'"Athalie".16 |
| 第19回 | Présentation d'"Esther". |
| 第20回 | Lecture d'"Esther".1 |
| 第21回 | Lecture d'"Esther".2 |
| 第22回 | Lecture d'"Esther".3 |
| 第23回 | Lecture d'"Esther".4 |
| 第24回 | Lecture d'"Esther".5 |
| 第25回 | Lecture d'"Esther".6 |
| 第26回 | Lecture d'"Esther".7 |

授業計画コメント

Cet emploi du temps est évidemment tout à fait théorique et il est probable que nous consacrerons peut-être un peu plus de cours à la lecture d'"Athalie". Mais, comme l'écrivait Raymond Queneau, le temps n'est-il pas une "matière plastique" ?

授業方法

Le cours sera donné en classe et devant les étudiants rassemblés.

使用言語

Français

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

Aucune préparation particulière n'est exigée. On peut lire le texte par avance mais ce n'est pas obligatoire : de toute façon, j'expliquerai tout ce qui me semble nécessaire et répondrai à toutes les questions qu'on voudra bien me poser.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

La participation, et donc la présence, en classe sont donc essentielles. Les questions des étudiants constituent un moteur indispensable des cours et servent généralement à enrichir la compréhension du texte. Elles sont donc particulièrement bienvenues.

この授業は、学部生・院生双方が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Je répondrai à toutes les remarques et à toutes les questions, et même en japonais s'il le faut.

教科書

Athalie: Le Théâtre de poche, Jean Racine, Le Livre de poche, 1993, 978-2253062288

Esther: Folio Théâtre, Jean Racine, Folio Gallimard, 2007

教科書コメント

Ces références sont données pour que chacun puisse utiliser le même texte mais il va de soi que, si l'on possède déjà un exemplaire des deux textes, il n'est pas nécessaire d'en acheter un nouveau !

履修上の注意

履修者数制限あり。第一回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360210101	科目ナンバリング	036A403	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)A				
副題	美術批評を読む				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	上杉 未央				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 3時限 西1-207				

授業概要

本授業では、デイドロ、ボードレール、アポリネール、ヴァレリー、マルロー、ディディ＝ユベルマンといったフランス語圏の主要な美術批評テキストをとりあげ、「美術批評とは何か」、「見ることはいかに言語化されるのか」という問いを考察します。各時代の批評を歴史的にたどりながら、美術作品の評価や解説にとどまらず、批評が「見るという行為そのもの」をいかに捉え直してきたかに注目します。授業ではフランス語原典の抜粋を用い、語彙・構文の精読を行うと同時に、議論・発表・短い記述課題を通して、批評的読解力と表現力の養成を目指します。

到達目標

- ・フランス語の美術批評テキストを精読し、その主張と論理構成を理解できるようになる。
- ・「見ること」「鑑賞すること」が時代や思想によって異なることを理解し、美術批評を思想的営みとして捉えられるようになる。
- ・作品の単純な感想ではなく、批評的視点に基づいて美術作品やテキストを分析し、自らの言葉で論述できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション「美術批評とは何か？」 美術史との違い／文学との接点 「見ることを書く」とは？
第2回	18世紀の美術批評：サロン批評の誕生 デイドロを読む(1)
第3回	18世紀の美術批評：サロン批評の誕生 デイドロを読む(2)
第4回	18世紀から19世紀の美術批評へ：古典主義vsロマン主義
第5回	19世紀の美術批評：ボードレールを読む(1) "Le Peintre de la vie moderne"
第6回	19世紀の美術批評：ボードレールを読む(2) "Le Peintre de la vie moderne"
第7回	19世紀の美術批評：ボードレールを読む(3) "Le Peintre de la vie moderne"
第8回	19世紀の美術批評：ボードレールを読む(5) "Salon de 1846"
第9回	19世紀の美術批評：ボードレールを読む(5) "Salon de 1846"
第10回	20世紀の美術批評：アポリネールを読む(1) "Les Peintres cubistes"
第11回	20世紀の美術批評：アポリネールを読む(2) "Les Peintres cubistes"
第12回	20世紀の美術批評：アポリネールを読む(3) "Les Peintres cubistes"
第13回	1学期の総括
第14回	夏季課題のFB
第15回	20世紀の美術批評：ヴァレリーを読む(1) "Introduction à la méthode de Léonard de Vinci"
第16回	20世紀の美術批評：ヴァレリーを読む(2) "Introduction à la méthode de Léonard de Vinci"
第17回	20世紀の美術批評：ヴァレリーを読む(3) "Introduction à la méthode de Léonard de Vinci"
第18回	20世紀の美術批評：マルローを読む(1) "Le musée imaginaire"
第19回	20世紀の美術批評：マルローを読む(2) "Le musée imaginaire"
第20回	20世紀の美術批評：マルローを読む(3) "Le musée imaginaire"
第21回	現代の美術批評：ディディ＝ユベルマンを読む(1)
第22回	現代の美術批評：ディディ＝ユベルマンを読む(2)
第23回	総括
第24回	学生によるグループワーク
第25回	グループワーク発表、FB
第26回	期末試験

授業計画コメント

受講者数、進度に応じて内容に変更が生じる可能性があります。最大受講者数を25名程度とするため、登録者数によっては抽選を行う可能性があります。初回の授業には必ず出席してください。

授業方法

対面授業を実施します。事前に担当を決め、担当者には指定した箇所のフランス語を音読、その後に日本語訳を検討する演習授業を実施します。講読した箇所について、リアクションペーパーを課す回があります。また、夏季課題として美術批評、作品分析をめぐるレポートを課します。2学期には、授業で読んだ作家たちの批評のアプローチをめぐるグループワークを実施する回があります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

訳読担当者は、指定された箇所の訳文を用意してきてください。担当になっていなくても、授業で読むテキストを事前に読み込んできてください。なお、受講者数により、やり方を変更する可能性があります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	最終授業日の授業時間内に実施予定です
中間テスト		
レポート	30 %	夏季休暇中に出題、第2学期開始直前に締め切り
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	25 %	
その他(備考欄を参照)	15 %	授業参加・課題(リアクションシートを含む)

成績評価コメント

各学期、3分の1以上欠席した場合は単位を習得できません。(各学期、許容される欠席回数は4回まで。なお、欠席回数が4回未満でも、欠席した回数分、減点します)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時間内に解説を行う他、個別にコメントを返します。

教科書

Salons:Folio Classique,Denis Diderot,Gallimard,2008,978-2070313853

Ecrits sur l'art:Livre de Poche,Charles Baudelaire,Librairie generale francaise,1993,978-2253060901

教科書コメント

講読するフランス語テキストはそれぞれの書籍を抜粋したプリントを配布します。

参考文献

群衆の中の芸術家:ちくま学術文庫,阿部良雄,筑摩書房,1999,978-4480085184

参考文献コメント

初回授業時に別途指示します

履修上の注意

履修人数制限あり(25名)。初回の授業に参加すること。
授業の際は配布したプリント、辞書を忘れずに持参してください。

その他

連絡がある場合はmoodleのメッセージ機能ではなく、教員の個人アドレス(uesugi@toyo.jp)にメールを送ってください。

講義コード	U360210102	科目ナンバリング	036A403	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)B				
副題	近代都市と文学・美術				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	彦江 智弘				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 2時限 北1-405				

授業概要

首都圏を中心に都市部で大規模開発事業が進行しており、私たちは日々都市が変わりゆく様を目撃している。このような傾向は世界的に加速しており、2025年の国際連合の報告によると、世界人口の45%が都市部に居住し、この割合は2050年までに世界人口の3分の2にまでに達すると予想されている。つまり私たちは、19世紀以来拡大し続ける都市化が世界規模でさらに加速する時代を生きていることになる。

このような状況と文学や芸術はどのように関係するのだろうか。たとえば、まちづくりの専門家である西本千尋による『まちは言葉でできている』（柏書房、2025）には次のような一節がある。「すべて景色の前には「言葉」がある。わたしたちは「言葉」で街をつくってきた。ある日突然、そこにブルドーザーが現れるのではない。必ず、その前に「言葉」がある。だからその「言葉」が変われば、ブルドーザーの現れ方も、立ち入り方も、去り方も変わり、まちのかたちも変わる」。文学はもちろん街の「景色」やその変わりゆく様を言葉で捉えてきた。しかしそれだけではなくその「言葉」を変えようとしてきた歴史を持っている。

本授業ではこのような問題意識を念頭に、都市という多角的対象にアプローチする手がかりを文学や思想に求め検討していく。特にフランスでは19世紀半ばのオスマンによるパリ改造以来、都市の発展が文学や芸術を刺激してきた。このような作品を論じた論考を取り上げると同時に理論的な考察を検討し、都市に対する問題意識を具体的に高めることを目指す。

前期では主に理論的考察を交えながら都市の様々な問題を概括し、後期では19世紀から20世紀初頭にかけての時代を舞台に文学を始めとする芸術作品がいかにパリを捉えてきたのかを検討する。その際に前期で取り上げた様々なテーマをこれに関連付けていく。様々な文献を取り上げる予定だが、ロラン・バルト、ヴァルター・ベンヤミン、マルク・オジェ、ジャック・ドンスロ、デヴィッド・ハーヴェイ、山田登世子、今橋映子などの論考を基に議論を進める。またユートピアの問題や日本人の作家によるパリの経験なども取り上げる予定。

到達目標

①様々な都市論について発表・議論することで都市を考察するための基礎的な知識を身につけることができる。②文学作品や芸術作品を都市という観点から読み解くスキルを習得し、自分たちが生きる都市を批判的に検討することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(前期)
第2回	文学はいかに都市を捉えるか
第3回	都市の現実①都市と資本主義
第4回	都市の現実②フランスの都市郊外の問題
第5回	都市はいかに設計されるのか①都市計画の歴史
第6回	都市はいかに設計されるのか②ユートピア
第7回	ル・コルビュジエの都市思想
第8回	ロラン・バルトと都市①記号学
第9回	ロラン・バルトと都市②日本の都市の経験
第10回	いかに都市を経験するか①ベンヤミン
第11回	いかに都市を経験するか②非＝場所
第12回	受講者による研究発表
第13回	振り返り
第14回	イントロダクション(後期)
第15回	パリの歴史
第16回	近代パリの成立
第17回	文学とパリ①
第18回	文学とパリ②
第19回	文学とパリ③
第20回	美術とパリ①
第21回	美術とパリ②
第22回	写真とパリ
第23回	日本人作家のパリ①
第24回	日本人作家のパリ②
第25回	受講者による研究発表
第26回	総括

授業計画コメント

授業の進捗状況、参加者の関心に応じて適宜授業内容を変更することがあります。

授業方法

参加者の発表を起点とする討論形式を中心に、適宜講義を交えて授業を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前に指定された資料を読み込み、これまでの授業内容との関連に注意しながら議論の際のコメント等をまとめておく(1~2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回取り上げる文献を読み込んだ上で、事前にコメントを提出してもらおう予定です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習形式の授業のため授業内でフィードバックを行う。

参考文献

リゾート世紀末,山田登世子,筑摩書房,1998,9784480857576

ユートピア文学選集:平凡社ライブラリー,小倉孝誠,平凡社,2025,9784582770018

反乱する都市:資本のアーバナイゼーションと都市の再創造,デヴィッド・ハーヴェイ,作品社,2013,9784861824203

都市が壊れるとき:郊外の危機に対応できるのはどのような政治か,ジャック・ドンズロ,人文書院,2012,9784409230480

パリと日本人 近代文学セレクション:平凡社ライブラリー,和田博文,平凡社ライブラリー,2025,9784582770049

参考文献コメント

上記以外は適宜授業で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

演習形式の授業のため、参加者は資料作りや適切な発表の進め方、また討論における建設的なコメントの作法を実践的に身につけるといふ観点から積極的な態度で授業に臨むことが求められます。

講義コード	U360210103	科目ナンバリング	036A403	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)C				
副題	フランスのBDを読む				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	進藤 久乃				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 2時限 西2-403				

授業概要

フランスのBD(エドワード・マイブリッジの人生を描いたGuy Delisle, Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge, Delcourt, 2024)を速いペースで読んでいきます。BD (bande dessinée) はフランス語圏の漫画のようなものですが、テキストは多めです。内容を理解するのはもちろんのこと、比較的新しいBDというジャンル、作品の時代背景や写真というメディアについても理解を深めます。

到達目標

- ・これまでに学んだ文法事項を踏まえて、フランス語のテキストを正確に読むことができるようになる。
- ・BDというジャンルについて理解を深める。とりわけ、BDに他の芸術ジャンルがどのように表象されているかを考える。
- ・写真と映画の黎明期について理解を深める。
- ・授業で扱ったトピックから自分の興味のあるテーマを見つけ、論文執筆の形式(参考文献の書き方、引用の仕方など)を守りながらレポートを作成することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	授業で扱うBD作品についての説明
第3回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1855 (1)
第4回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1855 (2)
第5回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1870 (1)
第6回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1870 (2)
第7回	ベンヤミン『写真小史』を読む(1)
第8回	ベンヤミン『写真小史』を読む(2)
第9回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1872(1)
第10回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1872(2)
第11回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1876(1)
第12回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1876(2)
第13回	第1学期のまとめ
第14回	前期の振り返りと後期ガイダンス
第15回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1880(1)
第16回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1880(2)
第17回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1884(1)
第18回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1884(2)
第19回	バルト『明るい部屋』を読む(1)
第20回	バルト『明るい部屋』を読む(2)
第21回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1893(1)
第22回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1893(2)
第23回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1895(1)
第24回	Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Eadweard Muybridge 1895(2)
第25回	レポートについて説明
第26回	第2学期のまとめ

授業計画コメント

指定された部分について、必ず予習をしてください。
上記の授業計画は目安であり、履修者の興味や関心に応じて、進度や扱う作品を変更・追加することがある。

授業方法

対面の演習形式で行う。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

授業内で扱う予定のフランス語のテキストを辞書をひきながら読み、わからない箇所をチェックしてくる(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	第1学期・2学期にレポートを課す
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	訳読や内容についてのコメント、および発表
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・演習形式の授業なので、参加者は十分に予習をした上で積極的に授業に参加することが求められる。あてられた際にまったく予習していない場合や「わかりません」としか答えない場合は参加しているとはみなさない。
- ・後期に個人発表を課す予定。
- ・レポートの詳細は授業内で伝えるが、授業内容を踏まえたものとする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期レポートに関しては、授業内でフィードバックを行い、希望者には個別にフィードバックを行う。

後期レポートに関しては、コメントをつけて返却する予定である。

教科書

Pour une fraction de seconde : La Vie mouvementée d'Edward Muybridge, Guy Delisle, Delcourt, 2024, 9782413085850

教科書コメント

プリントを配布する。

参考文献

図説写真小史:ちくま学芸文庫,ヴァルター・ベンヤミン,筑摩書房,1998,9784480084194

明るい部屋,ロラン・バルト,みすず書房,1997,9784622049050

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360210104	科目ナンバリング	036A403	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)D				
副題	フランスモードの世界ーココ・シャネルをめぐって				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	岡部 杏子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 水曜日 2時限 西2-404				

授業概要

フランス・モードの世界に革新をもたらしたデザイナーであるココ・シャネルの生涯と作品を取り上げます。前期は、ポール・モランによる伝記 L'Allure de Chanel を読解し、語学力の向上を図るとともに、シャネルの人生や作品についての理解を深めます。並行して、シャネルと交流のあった芸術家についても調査し、20世紀フランスの文化・歴史に関する知識を身につけます。後期は前期に学んだ知識を踏まえて、関心を持ったテーマに関するグループ発表、ディスカッションが中心になります。

到達目標

1. フランス・モード史に関する知識を深め、その特色について自らの言葉で述べることができる。
2. これまでに学んだ文法の知識に基づいてフランス語のテキストを読解し、内容を理解することができる。
3. 問いを立てて、論理的な文章でレポートを執筆することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、イントロダクション:現代におけるココ・シャネル像
第2回	L'allure de Chanel 講読:1・2章
第3回	L'allure de Chanel 講読:3・4章
第4回	L'allure de Chanel 講読:第5章
第5回	L'allure de Chanel 講読:第6・7・8章
第6回	L'allure de Chanel 講読:第9・10・11章
第7回	L'allure de Chanel 講読:第12・13・14・15章
第8回	L'allure de Chanel 講読:第16・17・18章
第9回	L'allure de Chanel 講読:第19・20・21章
第10回	L'allure de Chanel 講読:第22章
第11回	L'allure de Chanel 講読:第23・24章
第12回	到達度の確認
第13回	まとめと総括
第14回	L'allure de Chanel :前期のふりかえり
第15回	ココ・シャネルと視覚芸術
第16回	ココ・シャネルと文学
第17回	ココ・シャネルと同時代のデザイナーたち
第18回	ココ・シャネルとセレブリティ
第19回	グループ発表①、ディスカッション、教員による講評
第20回	グループ発表②、ディスカッション、教員による講評
第21回	グループ発表③、ディスカッション、教員による講評
第22回	グループ発表④、ディスカッション、教員による講評
第23回	グループ発表⑤、ディスカッション、教員による講評
第24回	グループ発表⑥、ディスカッション、教員による講評
第25回	到達度の確認
第26回	まとめと総括

授業計画コメント

上記の授業計画はあくまでも目安であり、受講者の人数や理解度に合わせて進度を調整することがあります。

授業方法

前期は、割り当てられたセクションをひとりずつ音読・訳読する発表形式で進めます。後期は関心を持ったテーマについてグループ発表をおこない、ディスカッションをおこないます。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

予習として、受講者全員が、各回の授業で指定された箇所の日本語訳を作成すること。発表の担当者は配布資料を作成すること(2時間)。

復習として、作成した日本語訳を見直し、文法理解が不十分であった箇所については教科書や文法事典で調べて修正すること。グループ発表の成果物を次週に提出できるよう準備すること(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	後期レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	授業での発表内容、参加度
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・中級文法を理解し、適切な訳文を作成して授業に臨んでいる。
- ・フランスのモード史や文化に関連する人物や事柄について文献などを意欲的に調査している。
- ・発表やディスカッションに主体的に取り組み、積極的に発言している。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験、レポートは採点后コメントをつけて返却し、フィードバックします。

Moodleも使用しますので、基本的な操作ができるよう各自でマニュアルを確認してください。

教科書コメント

授業で使用する資料は教員が作成、配布します。

参考文献

L'allure de Chanel:Folio,Paul Morand,Gallimard,2009, 978-2070396559

シャネル、人生を語る,ポール・モラン,中央公論新社,2024,978-4120057915

VOGUE ON ココ・シャネル:VOGUEシリーズ,プロンウイン・コスグレーヴ,ガイアブックス,2013,978-4882828600

シャネルーその言葉と仕事の秘密:ちくま文庫,山田登世子,筑摩書房,2021,978-4480437228

フランス・モード史への招待,徳井淑子ほか,悠書館,2016,978-4865820102

参考文献コメント

授業内で適宜紹介します。

仏和辞典(中辞典以上の収録語彙数の辞書)を必ず持参してください。

1年次、2年次に使用した教科書、文法書も適宜持参して、すぐに参照できるようにすることが望ましいです。

履修上の注意

履修者制限あり。第1回授業に必ず参加すること。

その他

発表は輪番で進めますので、やむを得ない理由で発表担当の日に遅刻・欠席する場合は、事前にMoodleで連絡し、無断欠席することのないようにしてください。

講義コード	U360211101	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)A				
副題	フロンドの乱とマザリナード				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	一丸 禎子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 4時限 中央-502				

授業概要

17世紀のフランス人にとっての日本はどのように認識されていたのか？フランスと日本の交流史は明治期以降に集中しています。実際、17世紀の日本は江戸時代に相当し、「鎖国」制作のゆえにフランスとの直接的な交流はありませんでした。しかしながら、17世紀半ばのフランスの内乱(フロンドの乱1648-1653)の間に印刷・拡散された誹謗中傷文書には「Japon」への言及が見出されます。時の宰相マザランを糾弾する文書になぜ日本が登場するのか。この単語はどのような価値を付加されていたのか。政治と文学の交差点である「マザリナード文書」をとりあげて考察します。

到達目標

17世紀におけるフランス人にとっての日本文化との接触を通じて、フランス近代の始まりにおける社会状況、西洋と東洋の隔たり、変化する世界観を概観できるようにします。また学習の過程で「調べる」「発表する」を重視し、デジタル・ヒューマにティーズ入門として、必要な基本的事項を身につけます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション/授業の説明/17世紀フランスについてどんなことを学んできたか？
第2回	17世紀フランス 出来事と社会 I
第3回	17世紀フランス 出来事と社会 II
第4回	17世紀フランス 出来事と社会 III
第5回	ルイ大王の世紀 ルイ14世の生涯 I (学生の発表あり)
第6回	ルイ大王の世紀 ルイ14世の生涯 II (学生の発表あり)
第7回	フロンドの乱 I 原因 / 高等法院のフロンドと大貴族のフロンド(学生の発表あり) *教科書第一章
第8回	フロンドの乱 II 主要人物 (学生の発表あり) *教科書第一章
第9回	フロンドの乱 III 主要人物 (学生の発表あり) *教科書第一章
第10回	マザリナード文書とは I 印刷時代のメディアとテキスト *教科書第三章
第11回	マザリナード文書とは II 印刷時代のメディアとテキスト *教科書第三章
第12回	「Japon」に言及するマザリナード文書
第13回	前期の振り返りと理解度の確認
第14回	マザリナード文書の書き手/17世紀フランスの文芸と制度 *教科書第二章
第15回	Cavalier d'outré-mer I
第16回	Cavalier d'outré-mer II
第17回	Cavalier d'outré-mer III
第18回	Festin burlesque du fourbe ou la mi-carême des partisans traités à la cour par leur chef & protecteur le C. M. I
第19回	Festin burlesque du fourbe ou la mi-carême des partisans traités à la cour par leur chef & protecteur le C. M. II
第20回	Festin burlesque du fourbe ou la mi-carême des partisans traités à la cour par leur chef & protecteur le C. M. III
第21回	Festin burlesque du fourbe ou la mi-carême des partisans traités à la cour par leur chef & protecteur le C. M. IV
第22回	Raisonnements particuliers de Mazarin.I
第23回	Raisonnements particuliers de Mazarin.II
第24回	Raisonnements particuliers de Mazarin.III
第25回	全体のまとめ
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

ここに記載したシラバスの内容は、履修者のフランス語習熟度、フランスに関する知識の量などにしたがって、授業開始後に調整する可能性があります。

授業方法

講義と演習を組み合わせます。演習では、学生による調査、発表、ディスカッションがあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、次の授業に必要な予習の内容を伝えますので、かならず調べてください(教室では、調べてあることを前提に授業を進めます。したがって、質問されますが、そこで完璧に正しい答えを求めているわけではありません。不完全でもいいのです。その答えをより正しい形になるようにみんなで検討します)。準備時間は最低でも1時間以上。できれば3時間を目安にしてください。たぶん、本気で取り組むと、3時間くらい、あっという間に経ってしまうでしょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

発表、授業への取り組み、授業中の質問への答えなど、総合的に判断します。「良い質問」を考えることも大事ですから、「良い質問」は特に評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Moodleを介しておこないます

教科書

フロンドの乱とマザリナード, 一丸禎子, マザリナード・プロジェクト, 初, 2023, 978-4-909411-21-1

教科書コメント

教科書『フロンドの乱とマザリナード』は紙の本が売り切れており、再販の予定はありません。電子書籍を新学期までに用意します。詳細は教室にて。

参考文献

マザリナード探求, マザリナードプロジェクト, 初, 2021, 9784909411174

参考文献コメント

参考書『マザリナード探求』は一般書店では販売していません。紙の書籍としてはフランス図書のオンラインのみ (<https://www.francetosh.com/?pid=173905775>) 電子書籍はamazonなど複数のプラットフォームから購入可能です。そのほかにmazarinades.jpは日本語サイトで、参考文献や年表をあげてあります。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること。「調べる」「発表する」「ディスカッションする」作業を重要視します。

その他

この授業は時間外にも各自で調べたり、発表の準備をする必要がありますので、時間に余裕が必要です。

講義コード	U360211102	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)B				
副題	『レ・ミゼラブル』を読む				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	中山 慎太郎				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 3時限 北1-302				

授業概要

ミュージカル版や映画版の『レ・ミゼラブル』を見たことはあっても、原作を読んだことがある人は少ないのではないのでしょうか。本授業では、19世紀のフランス社会について学びながら、ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』をフランス語の原文で読解していきます(もちろん、『レ・ミゼラブル』は長編小説ですので、抜粋して読んでいきます)。原文でしか味わえない作品の魅力や作品内の様々な仕掛けを見つけていきましょう。また、作品の背後にあるユゴーの思想や、込められた想いに触れていければと思います。あわせて「アダプテーション」されたミュージカル作品、映画、ドラマ、アニメも分析の対象とします。「アダプテーション」の魅力と可能性についても考えていきたいと思います。

※『レ・ミゼラブル』のどこの箇所を読むかは履修者と相談しながら決めます。

到達目標

1. 社会背景や文化的背景に目を向けながら、文学作品を分析することができる。
2. 他ジャンルの芸術作品と関連させながら、文学作品を分析することができる。また、文学のアダプテーションの可能性について考察することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:ヴィクトル・ユゴーと『レ・ミゼラブル』
第2回	ユゴーについて
第3回	『レミゼ』を読む前に:詩人としてのユゴー1
第4回	『レミゼ』を読む前に:詩人としてのユゴー2
第5回	文学とアダプテーション:ミュージカル、映画『レ・ミゼラブル』1
第6回	文学とアダプテーション:ミュージカル、映画『レ・ミゼラブル』2
第7回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション1
第8回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション2
第9回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション3
第10回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション4
第11回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション5
第12回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション6
第13回	前期のまとめ
第14回	前期の復習
第15回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション7
第16回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション8
第17回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション9
第18回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション10
第19回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション11
第20回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション12
第21回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション13
第22回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション14
第23回	文学とアダプテーション:ドラマ『レ・ミゼラブル』
第24回	文学とアダプテーション:アニメ『レ・ミゼラブル 少女コゼット』
第25回	レポートについて
第26回	まとめ

授業計画コメント

授業の詳細は初回の授業で指示します。上記の授業内容はあくまで提案なので、履修者と相談のうえ授業の進め方を決めていきます。

授業方法

演習形式。

講師の解説だけでなく、受講者の輪読と発表、及びディスカッションによって授業を進めていきます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

訳読や発表の担当者以外も配布資料の必要部分をすべて読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	発表含む
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

口頭発表の際にコメントをします。また、レポートについては希望者にコメントをします。

教科書コメント

プリント配布

参考文献

レ・ミゼラブル(全5巻):平凡社ライブラリー,ヴィクトル・ユゴー,平凡社,2019,9784582768923

詩集:ヴィクトル・ユゴー文学館 第1巻,ヴィクトル・ユゴー,潮出版社,2000,9784267015618

参考文献コメント

上記以外については授業内に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

原文で作品を味わう楽しさを感じてもらえればと思います。翻訳を参考にしながら良いので、ゆっくりと原文を読み、その魅力を味わってみてください。

講義コード	U360211103	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)C				
副題	ジャン=ジャック・ルソーの自伝的作品を読む				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	土橋 友梨子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 4時限 西2-406				

授業概要

18世紀フランスの社会、文化、歴史について学びながら、この世紀を代表する作家ジャン=ジャック・ルソーの作品をフランス語で読んでいきます。
また、ルソーや彼の作品に関する研究書も読みたいと思います。そうすることは、作品への理解を深めるだけでなく、レポートを書いたり、発表をする際の問いの立て方や問題解決方法を学ぶことにも繋がるでしょう。

到達目標

フランス語で書かれたテキストを読解する力をつけます。
啓蒙の世紀である18世紀フランスという時代の歴史・文化・社会について学びながら、この時代に書かれた文学作品についての知識を深めていきます。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション: 授業の説明
第2回	18世紀フランスの歴史について知る(1)
第3回	18世紀フランスの文化について知る(2)
第4回	18世紀フランス文学史について知る(3)
第5回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』序文(1)
第6回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』序文(2)
第7回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』序文(3)
第8回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』第一巻(1)
第9回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』第一巻(2)
第10回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』第一巻(3)
第11回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』第三巻(1)
第12回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』第三巻(2)
第13回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』第三巻(3)、前期のまとめ
第14回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』第八巻(1)
第15回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』第八巻(2)
第16回	ジャン=ジャック・ルソー『告白』第八巻(3)
第17回	ジャン=ジャック・ルソー『マルゼルブへの手紙』(1)
第18回	ジャン=ジャック・ルソー『マルゼルブへの手紙』(2)
第19回	ジャン=ジャック・ルソー『マルゼルブへの手紙』(3)
第20回	ジャン=ジャック・ルソー『孤独な散歩者の夢想』第2の散歩(1)
第21回	ジャン=ジャック・ルソー『孤独な散歩者の夢想』第2の散歩(2)
第22回	ジャン=ジャック・ルソー『孤独な散歩者の夢想』第2の散歩(3)
第23回	ディスカッション(1)
第24回	ディスカッション(2)
第25回	ディスカッション(3)
第26回	後期のまとめ

授業計画コメント

履修者の関心に合わせて、訳読するテキストや進度が変更される場合もあります。

授業方法

演習形式で行います。
まず、教師が作品や作家に関する概要を講義し、その内容をふまえたうえで学生のみなさんに授業内で該当箇所を訳していただきます。授業内での取り組みがない場合は授業を進めることができなくなりますので、必ず辞書を持参してください。
訳した文章を参加者同士で検討し合うグループワークも取り入れます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:指定されたテキストを自分自身で訳してください。つまり、訳した箇所の内容を自分の言葉で簡潔に述べられること、代名詞が何を表しているのかを明確にすることなどを目指しましょう(2時間程度)。

復習:間違えて読解していた場所を見直し、理解を深めてください。また、扱った作品について調べましょう(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への積極的な参加姿勢を重視します。つまり、与えられた課題にしっかり取り組み、積極的に発言することが求められます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に行います。

教科書コメント

プリントを配布します。

参考文献コメント

授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。

第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360211104	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)D				
副題	ランボー研究				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	浜永 和希				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 月曜日 4時限 西1-202				

授業概要

ランボーの韻文詩を読む。文学を放棄するまでのわずかの期間に、ランボーの作品は伝統的な抒情詩の枠組みを覆し、「私」の希薄な抒情詩へ到達する。しかしこのような展開は、純粋な美学的関心によって駆動されていたのではない。彼の韻文詩につよく現れているのは、先行世代(ロマン派・高踏派)の詩人たちへの憤りである。社会における詩人の立場の変化を踏まえつつ、先行世代とランボーのテキストの比較を通じ、ランボーの韻文詩における反抗の意味について掘り下げて考えたい。

到達目標

第一に、ただフランス語を日本語に訳すのではなく、詩において言葉とイメージがどのように組み合わせられて意味を形作るのかを分析し、他者に対して説得的に提示できるようになること。第二に、研究対象のテキストに適切な補助線を引き、他の作家のテキストや同じ作家の別のテキストと比較する手法を学ぶこと。第三に、「反抗」についてごく真面目に考え抜くこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	19世紀フランスにおける詩人の社会的役割と表象の変遷についての概説
第3回	Les Étrennes des orphelins (1)
第4回	Les Étrennes des orphelins (2)
第5回	Sensation, Ophélie, Vénus anadyomène
第6回	Roman, Les Reparties de Nina
第7回	Première soirée, À la Musique
第8回	Rages de César, Le Mal, Le Forgeron
第9回	Ma Bohème, Le Buffet, Rêvé pour l'hiver
第10回	L'Éclatante Victoire de Sarrebrück, La Maline, Au Cabaret vert, Le Dormeur du Val
第11回	Le Cœur supplicié
第12回	La lettre à Paul Demeny du 15 mai 1871 (1)
第13回	La lettre à Paul Demeny du 15 mai 1871 (2)
第14回	後期ガイダンス
第15回	Le Poètes de sept ans
第16回	Ce qu'on dit au poète à propos de fleurs (1)
第17回	Ce qu'on dit au poète à propos de fleurs (2)
第18回	《 Qu'est-ce pour nous, mon cœur... 》, L'Homme juste
第19回	Les Voyelles, Les Douaniers, Les Assis
第20回	Les Sœurs de charité, Les Premières Communions
第21回	Bateau ivre
第22回	Comédie de la soif, Fêtes de la faim
第23回	Bonne pensée du matin, Larme
第24回	Bannières de mai, Chanson de la plus haute tour
第25回	L'Éternité, Âge d'or, 《 Ô saisons, ô châteaux... 》
第26回	まとめ

授業計画コメント

進度によって予定が前後する場合がある。

授業方法

第2回は講義形式で行い、第3回以降は演習形式で進める。あらかじめ各詩篇について担当者を決め、フランス語のテキストを日本語に訳してもらった上で、解釈を提示していただきたい。その際、漠然とした印象論にならないよう、解釈上でむずかしいと感じた箇所を具体的に指定し、それがなぜむずかしいと感じられるのか、また、どのような解釈が考えられるのかについて述べてほしい。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

詩の解釈においては、様々な可能性を考えた上で、それらを批判的に吟味することが不可欠である。各詩篇のどこに引っかかるポイントがあるか、担当者はもちろんのこと、受講者全員が考えてくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートにはコメントをつけて返却する。

教科書

対訳 ランボー詩集:岩波文庫,ランボー作、中地義和編,岩波書店,2020,9784003255223

ランボー全集,ランボー著、平井啓之、湯浅博雄、中地義和、川那部保明訳,青土社,2006,4791791681

教科書コメント

プリントを配布する

参考文献コメント

各詩篇について参照すべき文献は授業内で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回の授業に必ず出席すること。

講義コード	U3602111Z1	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)				
副題	フランス近代文学読解				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	田上 竜也				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 水曜日 4時限 仏文院生室				

授業概要

フランス現代作品の読解。テキストは履修者の関心に従い、相談の上決定する。フランス現代文学と現代思想の接点に位置するような作品をひとつないし複数選んで読む。『マルドロールの歌』第3歌を予定しているが、相談の上決定する。

到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、さまざまな解釈の広がり把握すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業概要の説明、テキストの選択
第2回	テキスト訳読1
第3回	テキスト訳読2
第4回	テキスト訳読3
第5回	テキスト訳読4
第6回	テキスト訳読5
第7回	テキスト訳読6
第8回	テキスト訳読7
第9回	テキスト訳読8
第10回	テキスト訳読9
第11回	テキスト訳読10
第12回	テキスト訳読11
第13回	前期まとめ
第14回	テキスト訳読12
第15回	テキスト訳読13
第16回	テキスト訳読14
第17回	テキスト訳読15
第18回	テキスト訳読16
第19回	テキスト訳読17
第20回	テキスト訳読18
第21回	テキスト訳読19
第22回	テキスト訳読20
第23回	テキスト訳読21
第24回	テキスト訳読22
第25回	テキスト訳読23
第26回	後期まとめ

授業計画コメント

大学院生及び、卒業演習履修者を主な対象とする。それ以外の学部生も履修可能だが、多すぎる場合は選抜する可能性あり。

授業方法

原則対面による演習形式だが、場合によりTeams使用。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指名された箇所は、各版の注など読み込み、どのような解釈が可能か説明できるようにする。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

能動的クラス参加、グループ作業の成果等)70% 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。レポート30%。

この授業は、学部生と院生が履修できるが、大学院生にはより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の発表内容をまとめたもの(配布資料含む)をレポートとする。

教科書コメント

テキストはコピー配布。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

主にメールを利用。

講義コード	U3602111Z2	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)				
副題	フランス文学における非西欧世界				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 4時限 その他				

授業概要

近代以降の西欧を牽引してきたフランスにおいては、非西欧世界との相互交渉を通して、西欧にとっての「他者」というものが文学における表象として大きな位置を占めてきた。では、その「他者」である非西欧世界はどのように描かれてきたのだろうか。この授業では、まずアンリ・ミショーが『アジアにおける一野蛮人』(1933)で描いた日本の描写を読んだ後、各自の関心に応じてフランス人作家が非西欧世界(主に日本を想定している)を描いた作品について発表してもらう。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析してそれを説得的に他者に伝えることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	『アジアにおける一野蛮人』の訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第3回	『アジアにおける一野蛮人』の訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第4回	『アジアにおける一野蛮人』の訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第5回	『アジアにおける一野蛮人』の訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第6回	『アジアにおける一野蛮人』の訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第7回	学生による発表、ディスカッション(1)
第8回	学生による発表、ディスカッション(2)
第9回	学生による発表、ディスカッション(3)
第10回	学生による発表、ディスカッション(4)
第11回	学生による発表、ディスカッション(5)
第12回	学生による発表、ディスカッション(6)
第13回	前期のまとめ
第14回	後期ガイダンス
第15回	学生による発表、ディスカッション(7)
第16回	学生による発表、ディスカッション(8)
第17回	学生による発表、ディスカッション(9)
第18回	学生による発表、ディスカッション(10)
第19回	学生による発表、ディスカッション(11)
第20回	学生による発表、ディスカッション(12)
第21回	学生による発表、ディスカッション(13)
第22回	学生による発表、ディスカッション(14)
第23回	学生による発表、ディスカッション(15)
第24回	学生による発表、ディスカッション(16)
第25回	後期のまとめ
第26回	全体のまとめ

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自に発表してもらいながら授業を進める。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること(2-3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書コメント

プリントを配布する。

履修上の注意

履修者数制限あり。初回の授業に必ず出席すること。

講義コード	U3602111Z3	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)				
副題	フランス自伝文学研究				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	内藤 真奈				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 金曜日 4時限 北1-406				

授業概要

フランス語で書かれた自伝的文学作品を研究する。自伝、自伝的小説、回想録、日記、オートフィクションなど様々なサブジャンルを有する自伝文学というものを、実際の作品を対象とし、ジャンル論、言語学、物語論などの観点から文学における主体のあり方について検討する。

到達目標

調査やディスカッションを通して、主体的に知識を得、対象の理解を深めることができるようになる。
文学研究の手法に触れ、活用を試みることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	自伝文学について:ディスカッション、グループワーク
第3回	自伝文学について:グループ発表
第4回	自伝文学作品について:個人発表
第5回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(1)
第6回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(2)
第7回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(3)
第8回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(4)
第9回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(5)
第10回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(6)
第11回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(7)
第12回	文献の訳読:履修者による訳読発表、ディスカッション、教員によるコメント(8)
第13回	前期のまとめ
第14回	前期レポートの講評
第15回	個人発表とディスカッション(1)
第16回	個人発表とディスカッション(2)
第17回	個人発表とディスカッション(3)
第18回	個人発表とディスカッション(4)
第19回	個人発表とディスカッション(5)
第20回	個人発表とディスカッション(6)
第21回	個人発表とディスカッション(7)
第22回	個人発表とディスカッション(8)
第23回	個人発表とディスカッション(9)
第24回	個人発表とディスカッション(10)
第25回	個人発表とディスカッション(11)
第26回	一年のまとめ

授業計画コメント

以上の授業計画は、履修人数、履修者の興味・理解度を考慮して修正することがある。

授業方法

演習形式

前期は自伝文学についてディスカッションを行いつつ、関連文献をフランス語で訳読し、理解することに挑戦する。

後期は履修者が各々選択した作品について個人発表を行う。前期の訳読を通して得た知識を応用して紹介・分析を行い、ディスカッションで理解・考察を深める。

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

予習: 訳読課題の理解と訳文作成、グループ発表・個人発表の準備など。(1時間30分)

復習: 予習の段階で理解が不十分であった部分について、次の機会に応用ができるようにしておく。(30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	訳読、グループワーク、ディスカッションの参加度
その他(備考欄を参照)	20 %	個人発表

成績評価コメント

評価基準は目安であり、状況によっては変更する場合がある。

履修者の発表やディスカッションが中心的な活動となるため、積極的な参加が評価の対象となる。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや発表に対して、適宜、コメントや講評を行う。

教科書コメント

授業で扱う文献・資料は配布する。

参考文献

Le Pacte autobiographique: Poétique, Philippe Lejeune, Seuil, 1975, 9782020042932

Fiction et diction: Poétique, Gérard Genette, Seuil, 1991, 9782020128519

Est-il je ?, Roman autobiographique et autofiction: Poétique, Philippe Gasparini, Seuil, 2004, 9782020589338

自伝の時間 ひとはなぜ自伝を書くのか, 石川美子, 中央公論社, 1997, 4120027317

Le Journal intime: littératures modernes, Béatrice Didier, puf, 1976, 9782130528920

参考文献コメント

上記以外の参考文献、資料は授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

初めて行うことが難しいと思われるのは当たり前のことです。

本授業では、難しいことに対してディスカッションを通してアプローチをしていく予定ですので、個々の能力にかかわらず積極的にテーマに取り組む意欲のある学生を歓迎します。

講義コード	U360300101	科目ナンバリング	036B405	単位	2
講義名	論文指導演習A				
英文科目名	Practice in thesis writing				
担当者名	横川 晶子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 第1学期 月曜日 4時限 西2-403				

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方、論文の形式、論文の作成方法を実践的に学びます。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学びます。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学びます。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方について
第2回	日本語の表記に関する基本的な事柄
第3回	論文のテーマと問いについて (1) 具体例をもとに
第4回	論文のテーマと問いについて (2) 歴史的視点について
第5回	参考文献の探し方
第6回	参考文献表の書き方
第7回	論理的な文章の書き方に関する注意点
第8回	引用について
第9回	注の作成について
第10回	論文の構成について
第11回	序論及び結論の書き方
第12回	フランス語の要旨の書き方
第13回	総括

授業方法

講義形式による授業です。各回の授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこないます。また、授業内容に沿った課題を複数回出し、提出された課題をもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこないます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料をよく読んで理解すること。授業期間中に複数回課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

論文作成のルールを身につけ、卒業論文にふさわしいテーマについての論考を適切に表現できることを評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題はコメントを付して返却、または授業内で説明をおこないます。個別にアドバイスを与えることもあります。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

履修できるのは、主に卒業論文、卒業翻訳、卒業演習を履修する資格がある学生。「論文指導演習B」「論文指導演習C」との重複履修は不可。

その他

課題はMoodleでの提出とします。個別の連絡もMoodleを通じて受け付けます。

講義コード	U360300102	科目ナンバリング	036B405	単位	2
講義名	論文指導演習B				
英文科目名	Practice in thesis writing				
担当者名	横川 晶子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 第2学期 月曜日 4時限 西2-403				

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方、論文の形式、論文の作成方法を実践的に学びます。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学びます。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学びます。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方について
第2回	日本語の表記に関する基本的な事柄
第3回	論文のテーマと問いについて (1) 具体例をもとに
第4回	論文のテーマと問いについて (2) 歴史的視点について
第5回	参考文献の探し方
第6回	参考文献表の書き方
第7回	論理的な文章の書き方に関する注意点
第8回	引用について
第9回	注の作成について
第10回	論文の構成について
第11回	序論及び結論の書き方
第12回	フランス語の要旨の書き方
第13回	総括

授業方法

講義形式による授業です。各回の授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこないます。また、授業内容に沿った課題を複数回出し、提出された課題をもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこないます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料をよく読んで理解すること。授業期間中に複数回課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

論文作成のルールを身につけ、卒業論文にふさわしいテーマについての論考を適切に表現できることを評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題はコメントを付して返却、または授業内で説明をおこないます。個別にアドバイスを与えることもあります。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

履修できるのは、主に3年次の学生。「論文指導演習A」「論文指導演習C」との重複履修は不可。

その他

課題はMoodleでの提出とします。個別の連絡もMoodleを通じて受け付けます。

講義コード	U360300103	科目ナンバリング	036B405	単位	2
講義名	論文指導演習C				
英文科目名	Practice in thesis writing				
担当者名	土橋 友梨子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 第2学期 金曜日 5時限 西2-406				

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方、論文の形式、論文の作成方法を実践的に学ぶ。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学ぶ。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明、卒業論文の構成を学ぶ
第2回	論文にふさわしい形式と文章を学ぶ
第3回	学術論文を分析する
第4回	テーマを探す・絞る
第5回	参考文献を探す
第6回	序論を書く
第7回	論文の構成を考える、パラグラフについて学ぶ
第8回	フランス語圏文化学科の決まりを学ぶ(1):固有名詞の表記の仕方
第9回	フランス語圏文化学科の決まりを学ぶ(2):参考文献の正しい書き方(和書)
第10回	フランス語圏文化学科の決まりを学ぶ(3):参考文献の正しい書き方(洋書・翻訳書)
第11回	フランス語圏文化学科の決まりを学ぶ(4):引用の仕方と脚注の入れ方(和書)
第12回	フランス語圏文化学科の決まりを学ぶ(5):引用の仕方と脚注の入れ方(洋書・翻訳書)
第13回	レジュメの書き方、総括

授業方法

毎回の授業で授業内容に即したプリントを配布し、具体例をあげながら説明をおこなう。授業内容に沿った課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。グループワークを通して、学生同士でお互いの提出物を評価し合う機会もある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料をよく読んで理解すること。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

論文作成のルールを身につけ、卒業論文にふさわしいテーマについての論考を適切に表現できることを評価する。授業では事前に出した課題を用いてグループワーク等を行うため、出された課題は必ず行ってくること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却、または授業内で説明を行う。個別にアドバイスを与えることもある。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

参考文献

最新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山 和久,NHKブックス,2022,9784140912720

まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書,阿部 幸大,光文社,2024,9784334103804

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

履修できるのは、主に3年次の学生。当年度内での「論文指導演習A」「論文指導演習B」との重複履修は不可。

その他

LMSによりレポート課題を提出してもらうので、PC環境を整えておくこと。

講義コード	U360302101	科目ナンバリング	036B406	単位	4
講義名	文献調査演習				
副題	卒業論文を提出する学生のための授業				
英文科目名	Research and Documentation				
担当者名	CARTON, Martine				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 火曜日 1時限 中央-506				

授業概要

卒業論文を提出する3-4年生を歓迎します。先生と一緒に研究のテーマの設定、論文か発表の構成法、そのために必要な情報を収集する方法、特にフランス語の文献を探す方法を学びます。最後に、論文または発表のレジュメをつくります。

到達目標

研究のテーマを決めること、インターネットで情報(本や記事やビデオやウェブサイトなど)を収集すること、論文の構想をまとめること、レジュメをつくること、最後にクラスでパワーポイントで発表すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 1 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第2回	Sujet 1 : 1er semestre - Exercice d'écoute, présentation du thème et des travaux à effectuer
第3回	Préparer le plan du thème du 1er semestre
第4回	Préparer le plan du dossier
第5回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 1 (1)
第6回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 1 (2)
第7回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1 (1)
第8回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1 (2)
第9回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1 (3)
第10回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1 (4)
第11回	Rédaction par groupe du dossier sur le sujet 1
第12回	Présentation des reportages par les étudiants
第13回	Présentation des reportages par les étudiants
第14回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 2 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第15回	Chaque étudiant prépare son dossier sur le thème de son choix
第16回	Préparer le plan du dossier (1)
第17回	Préparer le plan du dossier (2)
第18回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2 (1)
第19回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2 (2)
第20回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2 (3)
第21回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 2 (1)
第22回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 2 (2)
第23回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 2 (3)
第24回	Présentation des exposés par les étudiants (1)
第25回	Présentation des exposés par les étudiants (2)
第26回	Présentation des exposés par les étudiants (3)

授業方法

Les étudiants travailleront individuellement ou en groupe.

使用言語

日本語・フランス語

準備学習(予習・復習)

Préparation de 20-30 minutes avant chaque cours.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les exercices seront corrigés et rendus aux étudiants, les présentations orales seront corrigées et notées à l'oral.

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に出席のこと。

講義コード	U360303101	科目ナンバリング	036B104	単位	4
講義名	フランス語実習A				
英文科目名	Practice in the French language				
担当者名	大野 麻奈子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 2時限 西2-204				

授業概要

TCFおよびDELFのB1相当のフランス語力をつけることを目指す授業。語彙力、構文力を伸ばし、かつ聞き取り能力をつけ、自分からもフランス語で発信できるようにするためには、まずはフランス語の文章を正しい発音でインプットすることが重要。毎回の授業では主に、教科書『Inspire 2』を使用し、文法事項、発音などに留意しながらフランス語の文章に慣れ親しみ、読解・聞き取り問題演習を行う。時にDELFの試験問題演習や時事問題を扱う視聴覚資料なども織り交ぜる。

到達目標

TCF、DELFのレベルとしてはB1程度の能力をつけることを目指す(仏検では準2級または2級程度)。実践的な場面で使われているフランス語を理解するために、文化的な理解を深めつつ語彙を増やし、応用力をつける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	Inspire 2 L1
第3回	Inspire 2 L2
第4回	Inspire 2 L3
第5回	Inspire 2 L4
第6回	Inspire 2 L13
第7回	Inspire 2 L14
第8回	Inspire 2 L15
第9回	Inspire 2 L16
第10回	Inspire 2 L17
第11回	Inspire 2 L22
第12回	Inspire 2 L23
第13回	まとめ・DELF問題に挑戦
第14回	Inspire 2 L24
第15回	Inspire 2 L25
第16回	Inspire 2 L26
第17回	Inspire 2 L27
第18回	Inspire 2 L28
第19回	Inspire 2 L29
第20回	Inspire 2 L30
第21回	Inspire 2 L31
第22回	Inspire 2 L32
第23回	DELF問題に挑戦
第24回	ニュース読解・聴解に挑戦
第25回	まとめ①
第26回	まとめ②

授業計画コメント

授業時間内で、なるべく多くの人フランス語を発する機会を得るようにしたい。また、授業内容や進度については修正・変更もあり得る。

授業方法

演習型の授業。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の予習復習。教科書付属の練習サイトも活用してほしい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	小テストの結果、外部テストの結果なども含まれる。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上の数字はあくまでも目安。TCFをはじめとしたフランス語の外部試験の受験は絶対的な義務ではないが、強く勧める。また、受験した場合は評価のポイントとなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テスト及び第1学期末の試験については返却の際に説明をする。

教科書

Inspire 2, Jean-Thierry LE BOUGNEC / Marie-José LOPES, Hachette, 2020, 978-2-01-513579-3

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に出席のこと。

講義コード	U360303102	科目ナンバリング	036B104	単位	4
講義名	フランス語実習B				
英文科目名	Practice in the French language				
担当者名	一丸 禎子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 3時限 西1-204				

授業概要

フランス語を耳で聞いて、目で読んで理解する力をつけるために、いくつかの方法を組み合わせで展開します。フランスで作成された最新の教科書『Inspire 2』(DELF/DALFのA2に相当するレベル)を使い、加えてFrance2などのニュース番組の聴解・読解により、フランス語の実践的な運用能力を高めます。また、同時に映画や動画などの素材を用いて、教科書に出てくる日常的なシーン、さらにフランス社会の「今」と「今」の背後にある文化・歴史・社会のコンテキストについても理解を深めます。ディクテと語彙のテストがあります。

到達目標

聞いて理解する力をつける。また、聞いて理解する力をつけるために、具体的に何をしたらいいのか、勉強方法を身につけます。フランス語運用能力としては、欧州語学検定協会 ALTE が定めた国際規格に準拠し、フランス国民教育省が認定した公式フランス語資格DELF/DALFにおけるB1,B2を目指します。国内の仏検では準2級、2級を目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション/授業の進め方/教科書『Inspire 2』の紹介/DELF/DALFと仏検の違いについて解説
第2回	教科書とWebで提供される視聴覚教材の使い方
第3回	教科書L. 1
第4回	教科書L. 1(ディクテと語彙のテスト)
第5回	教科書L. 2
第6回	教科書L. 2
第7回	教科書L. 2(ディクテと語彙のテスト)
第8回	教科書L. 3
第9回	教科書L. 3
第10回	教科書L. 3(ディクテと語彙のテスト)
第11回	教科書L. 4
第12回	教科書L. 4
第13回	教科書L. 4(ディクテと語彙のテスト)
第14回	DELF/DALF応用問題と視聴覚教材を使った練習1
第15回	DELF/DALF応用問題と視聴覚教材を使った練習2
第16回	教科書L. 5
第17回	教科書L. 5
第18回	教科書L. 5(ディクテと語彙のテスト)
第19回	教科書L. 6
第20回	教科書L. 6(ディクテと語彙のテスト)
第21回	教科書L. 7
第22回	教科書L. 7(ディクテと語彙のテスト)
第23回	教科書L. 8
第24回	教科書L. 8(ディクテと語彙のテスト)
第25回	DELF/DALF応用問題と視聴覚教材を使った練習1
第26回	DELF/DALF応用問題と視聴覚教材を使った練習2(テスト含む)

授業計画コメント

このほかに授業では、フランスの文化、社会、歴史を理解するために映画を使います。それは教科書のテーマ、France2などニュースになっている時事問題に関連して選びます。

授業方法

演習形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の際に提示された予習範囲は確実に準備しましょう(およその準備時間は2時間とします)。復習は、各自、授業で学習したこと

を反復し、疑問点は整理して、つぎの授業の時に質問しましょう。また、動詞の活用、語彙の暗記、音読に関しては、指示がなくても、毎日続けられるように習慣化しましょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

「授業での発表内容、授業への参加度」においては、授業への積極的な取り組み、すぐれた質問内容、音読の習熟度、授業中のディクテの正確さなどを総合的に判断します。また、自主的に受けた学外試験(DELFDALF、仏検)の結果も単位取得の参考に加えますので申告してください。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室もしくはMoodleを通じて連絡すること

教科書

inspire 2, Jean-Thierry LE BOUGNEC他, Hachette, 初, 2020, 978-2-01-513579-3

教科書コメント

この教科書の音源はWebで提供されています。また、この教科書にはWeb上で利用できる視聴覚教材が付録しています。授業でも使いますが、積極的に自習に役立ててください。

参考文献コメント

都度、関連するものを教室で提示します。

履修上の注意

履修者制限あり。初回の授業に必ず出席すること。
語学習得は教室の105分だけでは十分に効果を発揮できません。練習を積み重ねる必要があります。読解する時間がない場合でも、音読は毎日欠かさないようにしましょう。

講義コード	U360303103	科目ナンバリング	036B104	単位	4
講義名	フランス語実習C				
英文科目名	Practice in the French language				
担当者名	川口 覚子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
キャンパス / 時間割	目白キャンパス 通年 木曜日 4時限 西1-108				

授業概要

TCF・DELFのB1相当のフランス語力をつけることを目指す授業。文法力の復習、語彙力、読解力、聞き取り、発音などの能力を高めていく。

- 1) 発音規則を確認しながら、正しい発音の練習 → 短い文章の音読練習。
- 2) 語彙力を高めるためテーマ別(住居・身につけるもの・生活雑貨・環境問題など)の単語を覚える。
- 3) 教科書『Inspire2』を使用し、聞き取る力を伸ばし、同時にフランスの文化を養っていく。
- 4) 文法復習として問題演習を行う。

到達目標

実践的な場面で使われているフランス語を理解するために、文化的な理解を深めながら語彙を増やし、構文力をつける。TCF、DELFのレベルとしてはB1相当の能力をつけることを目指します(仏検では準2級または2級程度)。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 授業方法の説明
第2回	Inspire 2 L1 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第3回	Inspire 2 L1 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第4回	Inspire 2 L2 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第5回	Inspire 2 L2 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第6回	Inspire 2 L3 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第7回	Inspire 2 L3 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第8回	Inspire 2 L4 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第9回	Inspire 2 L4 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第10回	Inspire 2 L5 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第11回	Inspire 2 L5 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第12回	前期まとめ
第13回	理解度の確認
第14回	前期試験のフィードバック Inspire 2 L6 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第15回	Inspire 2 L6 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第16回	Inspire 2 L7 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第17回	Inspire 2 L7 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第18回	Inspire 2 L8 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第19回	Inspire 2 L8 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第20回	Inspire 2 L9 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第21回	Inspire 2 L9 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第22回	Inspire 2 L10 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第23回	Inspire 2 L10 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第24回	DELF DALFの模擬テスト
第25回	後期まとめ
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容は目安であり、学生の理解度によって変わることがあります。テキストのほか、単語、文章を暗記しまとめて小テストを細かくやる予定です。TCFなどの演習問題も取り入れます。

授業方法

演習形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

学習した語彙や表現を復習してください。課題が出る場合もあります。(音読ファイルを含む)

Inspire 2については視聴覚資料(音源とビデオ)のサイトがあるので、予習復習に大いに活用すること。準備時間は1時間半ほど。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	小テスト、音読などを含む
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

配分はあくまでも参考程度で、総合的に評価します。小テスト、ディクテ、音読などの課題提出も評価に含みます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題、試験は、授業で答え合わせをし、次につなげます。

教科書

Inspire 2, Jean-Thierry LEBOUGNEC / Marie-josé LOPES, Hachette, 2020, 978-2-01-513579-3

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。